

薩摩藩の人口

尾口義男

はじめに

近世全期を通しての薩摩藩（鹿児島藩）の人口と動態が十分に解明されてはいない。

例えば、豊臣秀吉が九州平定のため約三〇万人ともいわれる将兵を率いて薩摩に下向してきた天正十五年（一五八七）の頃から徳川家康によって江戸に幕府開設がなされた近世初頭、この南九州の地にいったいどれくらいの人口が住んでいたのか全く明らかにされていないし、考証による推定を試みた研究もない。また、これより二百数十年余を経て現在からわずか百三十年前の人口、すなわち薩摩藩主導のもと維新変革の事業が本格的に始まった王政復古（慶応三年一八六七）から廃藩置県（明治四年一八七二）の行われた明治維新期の藩政終末段階の頃の人口すら明らかにされていない。したがって当然のことながら、近世全期を通しての薩摩藩の人口動態も正確なところは不明と行ってよい。

すなわち、これまでの鹿児島県の近世史研究を振り返って見た場合、現在も含めて、同期の人口動態や人口問題に十分な意や関心を払い、本格的な考証と論述を行なった研究はほとんどない。

歴史人口学の第一人者速水融は、およそ、いつの時代にあっても、一國や一藩単位での政治や経済など人間社会の変動によって、その人口や家族社会のあり方や構造などが大きな影響をうける一方で、逆に、人口

動態や家族構造のあり方といったものの変動が、政治や経済活動ほか文化や信仰など人間社会の諸活動や生活のあり方に大きな影響を与え、社会を大きくつき動かして変容せしめていくものであることを説く（『歴史人口学の世界』岩波書店）。

さて、薩摩藩の近世初期からその終末期までのそれぞれの時期における、藩領それぞれの地域（外城一郷）ごとの人口が身分階層別・男女別などの内訳とともに具体的に把握できて、近世を通じての藩全体や一定の地域ブロックごとの人口動態等が具体的に確認できる数量や史料情報であらたに付加して近世の薩摩藩社会をながめた場合、どのような姿が見えてくるのであろうか。

本稿は、薩摩藩の各種の人口関係史料から得られるデータや史料情報を付加して、これまでの薩摩藩の社会史を見つめ直してみたいと意図する筆者が、これからの本格的な研究の前提的作業として作成した人口関係資料の紹介とその資料作成の間に行なった考証の一部結果の報告、及び若干の問題提起を行なうことを目的に発表するものである。

一、十七世紀前期の人口史料と薩摩藩人口

これまでの研究において、十七世紀前期、すなわち慶長・元和・寛永・正保・慶安といった一六五〇年代以前の薩摩藩人口を示す史料の所在は全く知られていない。寛永十三年正月吉日「堺目人数・武具注文」は寛永年間（一六三〇年代）の薩摩藩の人口が推定できる極めて貴重な史料であり、寛永十六年三月四日「加久藤衆中町在郷人数改目録」は前記「堺目人数・武具注文」が寛永期の確かな薩摩藩人口史料であることを証明してくれるものである。

いずれも、これまで研究者にはほとんど注目されることのなかった史料であるので、以下、簡単な史料紹介を行なったあと、これらの史料にもとづいて寛永期の薩摩藩人口の推計を試みてみたい。

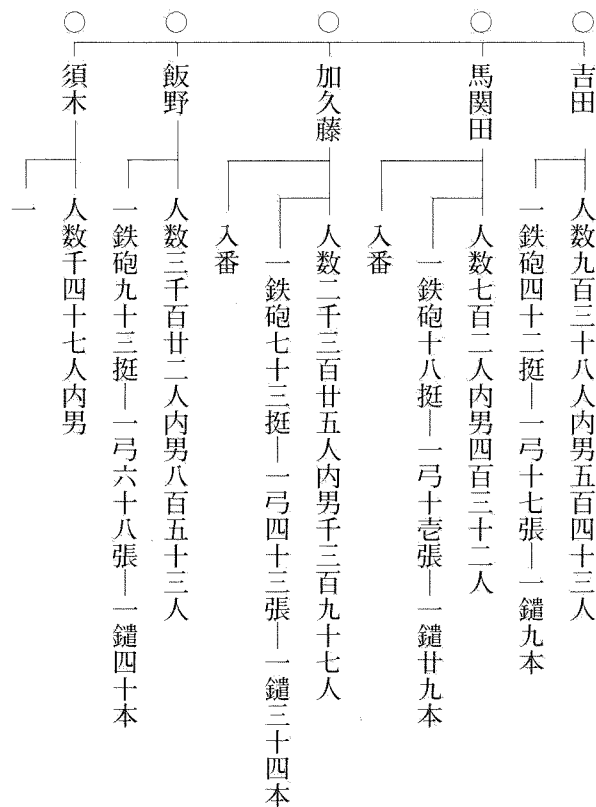
1. 寛永十三年の「堺目人数・武具注文」と

同十六年の「加久藤衆中町在郷人数改目録」

文書末尾に「寛十三 正月吉日」の発給年月をもち、もとは二通から成っていたことが知られる「堺目人数・武具注文」は、東京大学史料編纂所所蔵「続編島津氏正統系図 十八代家久第七十七」（島津家文書）に収められ、昭和六十年に鹿児島県が刊行した『鹿児島県史料 旧記雑録後編五』にも九〇一号文書として収載されている。

本文の記事内容は、末尾の発給年月から、いずれも寛永十三年（一六三六）正月段階のものと推察される薩摩藩領内の約九〇の外城・私領（郷、以下「郷」と総称）について、おそらくは有事の際の軍事行動や平常の際の警衛活動を共にすることを義務づけられていたのではないか

と推測される地域ブロックごとに、それぞれの郷の人数とその中の男の人数、及び各郷割り当てる鉄砲や弓・鎗・長刀などの武器数を書き上げている。その一例を日向国の加久藤郷が所属する地域ブロックにとつて示すと、次のとおりである。



ところで、これらの記事中にみえる、例えば加久藤の「人数二千三百廿五人」や「内男千三百九十七人」などといった数値は、寛永十三年段階の加久藤郷のどのような人口を示しているのであろうか。

これらの数値の示すものを知るに好箇の史料がある。幕末の薩摩藩の著名な歴史家伊地知季安が文政末から天保初めの頃に著したと推測される「寛永軍徴 卷十九ノ下」（島津家文書、東京大学史料編纂所所蔵）

に、季安が「加久藤衆中町在郷人数改目録」と文書題を付した寛永十六年（一六三九）の軍役関係史料が収められている。

加久藤衆中町在郷人数改目録

寛永十二年ノ改之高

一 男女二千三百廿六人者

内百四拾二人者

他方へ出候者

百七拾五人者

死走之者

引残テ

男女二千九人者

外ニ

男女二百八十九人者

一人、但寛永十二年改已後

男女百廿七人者

生子、右同

三口 寛永十六年改之高

惣合男女弐千四百廿五人者

内 男千四百六十九人

女九百五十六人

内

男女千二百六十三人者

男七百五十六人

女五百七人

地頭衆中并又小者、出家社人籠

男女千百六十二人者

内 男七百七十二人

女四百四十九人

町在郷、座頭行脚籠

加久藤噺

【第1表】（寛永12年・寛永16年）加久藤郷（日向国諸県郡）の男女別人口、及び身分階層別人口
(1635) (1639)

1. 男女別人口

	寛永12年 (1635)	寛永16年 <比率> (1639) %
男子		1,469 <60.6>
女子		956 <39.4>
総人口	2,326	2,425 <100.0>
備考	<寛永12年～16年迄の人口変動>	
	A. 人口減少 317人	
	a. 転出者 142人	
	b. 死失・欠落者 175人	
	B. 人口増加 416人	
a. 転入者 289人		
b. 生子 127人		
<寛永12年～16年迄の過去4年間の人口増加率(対比、寛永12年)> 4.2%……年増加率約1%		

2. 身分階層別人口

	寛永12年 (1635)	寛永16年 <比率> (1639) %
身分	地頭・衆中・又小者(含、出家・社人)	1,263 <52.1> (男子756) <31.2> (女子507) <20.9>
	町・在郷(含、座頭・行脚)	1,162 <47.9> (男子712) <29.4> (女子449) <18.5>
総人口		2,425 <100.0>
		(男子1,469) <60.6> (女子956) <39.4>

[出典：東京大学史料編纂所蔵「寛永軍徴 卷十九ノ下」]

注. 表の2中の人口比率はそれぞれ寛永16年の加久藤郷総人口を100とした場合の数値を示してある。

寛永十六年卯三月四日

白坂大炊左衛門尉

同 谷口次郎左衛門尉

右者、鹿兒島より柳田喜左衛門尉殿御越被成候而、此改之目録之

留也、

一目すれば、この目録が寛永十二年から同十六年に至る四年間における日向国加久藤郷の人口変動とそれをもたらした内容の内訳、及び寛永十六年段階の加久藤郷総人口に占める男女別ならびに身分階層別の内訳人口を示した人口史料であることがわかる。

第一表の1・2に示したとおり、「加久藤衆中町在郷人数改目録」によれば、加久藤郷の総人口は寛永十二年に二千三二六人、四年後の同十六年には九九人増えて総人口が二千四二五人、うち男子人口一千四六九人・女子人口九五六人であったことがわかる。

この両期の総人口や寛永十六年の男子人口に前掲の「堺目人数・武具注文」に留められた加久藤郷の「人数二千三百廿五人」や「内男千三百九十七人」といった数値を対比してみると、「人数二千三百廿五人」は寛永十三年段階の加久藤郷総人口を示し、「内男千三百九十七人」は内訳としての同郷の男子人口を示していることが判明する。

とするならば、「堺目人数・武具注文」に書き上げられた約九〇を数える外城（郷）ごとに付された記事中、「人数」と「内男」の書き出しで記された数値はそれぞれ当該外城の総人口と内訳としての男子人口を示していることがわかり、これらの各総人口からそれぞれの男子人口を差し引くと郷ごとの女子人口も判明することになる。

この時期の薩摩藩の正確な郷数を示した史料がなく正確なところは明らかでないが、諸先学の指摘するところや当該期の諸史料から、この時期一〇〇をいくらか越えた郷数の存在を推測することができる。

前掲「堺目人数・武具注文」は、近世前期の寛永十三年（一六三六）段階の薩摩藩総郷数の八割を大きく超える約九〇の郷の総人口とその男女内訳人口を知ることができる極めて貴重な人口史料といえる。

2. 「堺目人数・武具注文」から推測される

寛永中期の薩摩藩の国別人口と総人口

「堺目人数・武具注文」に書き上げの諸郷をそれぞれが所属する国ごとに出・分類して、寛永十三年段階の薩摩・大隅・日向諸県郡の総人口と男女内訳人口を国別に示すと第二表の1・3にみるとおりである。これらのデータをベースに、三ヶ国のうち総人口が判明する日向国諸県郡（総人口六万三千七二三人）を除き、不明分の寛永期の薩摩国と大隅国の総人口をそれぞれ推計すると次のとおりとなる。

まず薩摩国の場合、当時同国に実在の四ヶ郷名が書き上げられ、うち久志郷を除く四ヶ郷について人口記載があるのであるが、この分を集計した合計全体人口は一四万八千三七七人（男子八万六千一〇四人・女子六万二千三七三人）である。

ほかの古文書や古記録史料等によると、この時期の同国内には、前記四ヶ郷と人口記載のない久志郷のほかに、左記Aに掲げた喜入・鹿籠・蘭牟田・甌島・水引・東郷・黒木など少なくとも七ヶ郷が存在したことがわかる。

【第2表】寛永13年(1636)鹿兒島藩の外城(郷)別・男女別人口

1. 薩摩国(一部、40カ外城分)

	外城名	男数(比率)	女数(比率)	合計(比率)
1	指宿	3,609 (57.8%)	2,635 (42.2%)	6,244 (100.0%)
2	額娃	3,595 (56.4%)	2,776 (43.6%)	6,371 (100.0%)
3	山川	730 (53.5%)	635 (46.5%)	1,365 (100.0%)
4	知覧	1,731 (59.2%)	1,193 (40.8%)	2,924 (100.0%)
5	坊津	291 (56.0%)	229 (44.0%)	520 (100.0%)
6	川辺	1,886 (59.3%)	1,297 (40.7%)	3,183 (100.0%)
7	泊	331 (49.6%)	337 (50.4%)	668 (100.0%)
8	久志	<不明>	<不明>	<不明>
9	秋目	705 (57.4%)	523 (42.6%)	1,228 (100.0%)
10	加世田	3,957 (58.3%)	2,830 (47.7%)	6,787 (100.0%)
11	阿多	908 (57.8%)	664 (42.3%)	1,572 (100.0%)
12	田布施	1,556 (57.5%)	1,150 (42.5%)	2,706 (100.0%)
13	伊作	2,176 (59.2%)	1,501 (40.8%)	3,677 (100.0%)
14	永吉	641 (59.0%)	445 (41.0%)	1,086 (100.0%)
15	吉利	638 (57.2%)	477 (42.8%)	1,115 (100.0%)
16	日置	736 (59.5%)	500 (40.5%)	1,236 (100.0%)
17	市来	2,910 (57.6%)	2,140 (42.4%)	5,050 (100.0%)
18	串木野	1,990 (58.3%)	1,425 (41.7%)	3,415 (100.0%)
19	平佐	835 (58.2%)	599 (41.8%)	1,434 (100.0%)
20	清敷	2,998 (61.5%)	1,876 (38.5%)	4,874 (100.0%)
21	山田	340 (59.6%)	230 (40.4%)	570 (100.0%)

	外城名	男数(比率)	女数(比率)	合計(比率)
22	百次	238 (56.9%)	180 (43.1%)	418 (100.0%)
23	中郷	294 (61.6%)	183 (38.4%)	477 (100.0%)
24	隈之城	1,589 (59.0%)	1,104 (41.0%)	2,693 (100.0%)
25	高江	469 (58.6%)	331 (41.4%)	800 (100.0%)
26	高城	1,510 (59.5%)	1,027 (40.5%)	2,537 (100.0%)
27	阿久根	2,533 (57.6%)	1,868 (42.4%)	4,401 (100.0%)
28	高尾野	1,493 (58.3%)	1,069 (41.7%)	2,562 (100.0%)
29	出水	8,183 (58.5%)	5,798 (41.5%)	13,981 (100.0%)
30	大口	2,533 (60.5%)	1,652 (39.5%)	4,185 (100.0%)
31	山野	425 (59.2%)	293 (40.8%)	718 (100.0%)
32	羽月	890 (58.0%)	645 (42.0%)	1,535 (100.0%)
33	伊集院	3,399 (59.1%)	2,356 (40.9%)	5,755 (100.0%)
34	郡山	1,027 (57.8%)	750 (42.2%)	1,777 (100.0%)
35	宮之城	2,748 (61.3%)	1,735 (38.7%)	4,483 (100.0%)
36	山崎	711 (58.8%)	499 (41.2%)	1,210 (100.0%)
37	鶴田	1,152 (62.3%)	698 (37.7%)	1,850 (100.0%)
38	大村	1,309 (61.5%)	818 (38.5%)	2,127 (100.0%)
39	鹿兒島	18,624 (55.7%)	14,808 (44.3%)	33,432(100.0%)
40	谷山	3,238 (59.8%)	2,179 (40.2%)	5,417 (100.0%)
41	吉田	1,176 (59.0%)	818 (41.0%)	1,994 (100.0%)
	総計	86,104 (58.0%)	62,373 (42.0%)	148,377(100.0%)

[出典：東京大学史料編纂所蔵「統編島津氏正統系図十八代家久第七十七」] (『鹿兒島県史料 旧記録録後編五』に901号文書「堺目入数・武具注文」として収める)

- 注1. 本表は、近世中期以降の薩摩国所属の外城(郷)を抽出して作成してある。
 2. 次の外城(郷)や私領は当時実在ながら記載を欠く。()内は外城設置年代。
 喜入(文禄太閤検地の後より肝付氏)・鹿籠(慶長6年より喜入氏領)・蘭牟田(慶長19年より横山氏領)・甞島(元和5年)・水引(寛永5年)・東郷(寛永10年より日置島津氏領、延宝8年より藩直轄外城)・黒木(寛永11年より豊州島津氏領)・久志
 3. 次の外城(郷)や私領は当時未設置による実在なきために記載を欠く。()内は外城設置年代。
 佐志(明暦2年より佐志島津氏領)・長島(明暦2年)・山田(明暦2年、後の勝目郷)・樋脇(万治2年、設置当時は清敷郷)・今和泉(延享元年より今和泉島津氏領)
 3. 史料中にみえる「清敷」は、後世の到来から樋脇に至る一帯を含む地名である。
 4. 人口比率は各外城(郷)ごとに示してある。
 5. 寛永13年段階の薩摩国総人口を右に示したように、16~17万人位と推計したのは次のような理由による。

(寛永13年)
 薩摩国の推計総人口
 16~17万人か

ほかに適当な史料がないので、藩政最末期の史料ではあるが明治4年『薩隅地地理纂考』によれば、注2に示した当時実在しながら人口記載のない喜入・鹿籠・蘭牟田・甞島・水引・東郷・黒木・久志など8か郷が明治維新初期段階で薩摩国総人口(推定46万4千人前後)に占める人口(5万1千人前後)の比率は11%余である。仮に寛永段階でもこれとほぼ同じ比率で8か郷の人口が存在していたとして、当該期の薩摩国総人口を算出すると16万4千人余の数値を得ることができる。

2. 大隅国（一部、31カ外城分）

	外城名	男数(比率)	女数(比率)	合計(比率)
1	吉松	809 (60.1%)	537 (39.9%)	1,346 (100.0%)
2	財部	1,517 (57.6%)	1,116 (42.4%)	2,633 (100.0%)
3	串良	4,125 (59.0%)	2,863 (41.0%)	6,988 (100.0%)
4	高山	3,735 (58.5%)	2,646 (41.5%)	6,381 (100.0%)
5	始良	1,796 (59.6%)	1,212 (40.4%)	3,012 (100.0%)
6	大始良	2,083 (57.9%)	1,517 (42.1%)	3,600 (100.0%)
7	小根占	2,792 (57.0%)	2,102 (43.0%)	4,894 (100.0%)
8	大根占	1,654 (57.4%)	1,230 (42.6%)	2,884 (100.0%)
9	田代	627 (57.8%)	458 (42.2%)	1,085 (100.0%)
10	佐多	1,742 (58.0%)	1,262 (42.0%)	3,004 (100.0%)
11	馬越	602 (61.6%)	376 (38.4%)	978 (100.0%)
12	曾木	526 (58.5%)	373 (41.5%)	899 (100.0%)
13	湯之尾	399 (60.0%)	266 (40.0%)	665 (100.0%)
14	山田	941 (60.4%)	616 (39.6%)	1,557 (100.0%)
15	横川	1,096 (61.6%)	682 (38.8%)	1,778 (100.0%)
16	加治木	6,330 (57.3%)	4,708 (42.7%)	11,038(100.0%)

	外城名	男数(比率)	女数(比率)	合計(比率)
17	吉田	543 (57.9%)	395 (42.1%)	938 (100.0%)
18	踊	1,121 (58.0%)	812 (42.0%)	1,933 (100.0%)
19	日当山	637 (59.5%)	433 (40.5%)	1,070 (100.0%)
20	栗野	1,309 (60.9%)	842 (39.1%)	2,151 (100.0%)
21	本城	810 (60.9%)	520 (39.1%)	1,330 (100.0%)
22	恒吉	759 (58.7%)	534 (41.3%)	1,293 (100.0%)
23	牛根	1,012 (59.5%)	688 (40.5%)	1,700 (100.0%)
24	末吉	3,046 (58.1%)	2,197 (41.9%)	5,243 (100.0%)
25	帖佐	1,748 (58.1%)	1,263 (41.9%)	3,011 (100.0%)
26	敷根	632 (57.2%)	473 (42.8%)	1,105 (100.0%)
27	福山	1,007 (58.1%)	726 (41.9%)	1,733 (100.0%)
28	蒲生	1,176 (59.0%)	818 (41.0%)	1,994 (100.0%)
29	国分	5,232 (57.0%)	3,954 (43.0%)	9,186 (100.0%)
30	清水	1,082 (57.6%)	796 (42.4%)	1,878 (100.0%)
31	曾於郡	1,474 (58.6%)	1,040 (41.4%)	2,514 (100.0%)
	総計	52,362 (58.3%)	37,459 (41.7%)	89,821(100.0%)

[出典：東京大学史料編纂所蔵「統編島津氏正統系図十八代家久第七十七」]（『鹿児島県史料 旧記雑録後編五』に901号文書「堺目入数・武具注文」として収める）

- 注1. 本表は、近世中期以降の大隅国所属の外城（郷）を抽出して作成してある。
 2. 次の外城（郷）や私領は当時実在ながら記載を欠く。（ ）内は外城設置年代。
 桜島（近世初頭より藩直轄外城）・種子島（近世初頭より種子島氏領）・垂水（慶長4年より垂水島津氏領）・百引（慶長19年）
 市成（慶長19年より土岐氏=市成島津氏領）・新城（寛永13年より正式に新城島津氏領）
 3. 次の外城（郷）や私領は当時未設置による実在なきために記載を欠く。（ ）内は外城設置年代。
 内之浦（寛永17年より高山郷より分離）・鹿屋（正保2年、新城島津氏領を割いて藩直轄領）・高隈（明暦2年、串良より分離）
 溝辺（万治2年、加治木島津氏領を割く）・花岡（享保9年、花岡島津氏領）・重富（元文元年、越前島津家領）。
 4. 人口比率は各外城（郷）ごとに示してある。
 5. 寛永13年段階の大隅国総人口を右に示したように、11万人台と推計したのは次のような理由による。

(寛永13年)
大隅国の推計総人口
11万人台か

ほかに良い史料がなく、藩政最末期の史料ではあるが、明治4年『薩隅日地理纂考』によれば、注2に示した当時実在しながら人口記載のない桜島・種子島・垂水・百引・市成・新城（含む鹿屋）など6か郷が明治維新初期段階で大隅国総人口（推定5万4千人）に占める人口（21万人前後）の比率は25%余である。仮に寛永段階でもこれとほぼ同じ比率で6か郷の人口が存在していたとして、当該期の大隅国総人口を算出すると11万2千人余の数値を得ることができる。

2. 日向国諸県郡（全、19カ外城分）

	外城名	男数(比率)	女数(比率)	合計(比率)
1	綾	1,191 (56.5%)	916 (43.5%)	2,107 (100.0%)
2	三之山	2,240 (58.4%)	1,594 (41.6%)	3,834 (100.0%)
3	高岡	5,277 (54.6%)	4,388 (45.4%)	9,665 (100.0%)
4	穆佐	995 (58.8%)	698 (41.2%)	1,693 (100.0%)
5	倉岡	528 (58.0%)	383 (42.0%)	911 (100.0%)
6	高城	1,841 (60.6%)	1,199 (39.4%)	3,040 (100.0%)
7	山之口	683 (55.5%)	558 (45.0%)	1,241 (100.0%)
8	勝岡	439 (59.1%)	304 (40.9%)	743 (100.0%)
9	都城	9,211 (57.7%)	6,757 (42.3%)	15,968(100.0%)
10	吉田	543 (57.9%)	395 (42.1%)	938 (100.0%)

	外城名	男数(比率)	女数(比率)	合計(比率)
11	馬関田	432 (61.5%)	270 (38.5%)	702 (100.0%)
12	加久藤	1,397 (60.1%)	928 (39.9%)	2,325 (100.0%)
13	飯野	1,853 (59.4%)	1,269 (40.6%)	3,122 (100.0%)
14	須木	<記載なし>	<不明>	1,047 (100.0%)
15	野尻	1,094 (59.8%)	734 (40.2%)	1,828 (100.0%)
16	高原	1,852 (60.5%)	1,208 (39.5%)	3,060 (100.0%)
17	志布志	4,037 (59.8%)	2,712 (40.2%)	6,749 (100.0%)
18	松山	640 (59.4%)	438 (40.6%)	1,078 (100.0%)
19	大崎	2,192 (59.7%)	1,480 (40.3%)	3,672 (100.0%)
	総計	<約37,100位カ> (約58%)	<約26,000位カ> (約42%)	63,723(100.0%)

【出典：東京大学史料編纂所蔵「統編島津氏正統系図十八代家久第七十七」】（『鹿児島県史料 旧記雑録後編五』に901号文書「堺目入数・武具注文」として収める）

- 注1. 本表は、近世中期以降の日向国所属の外城（郷）を抽出して作成してある。
 2. 次の外城（郷）や私領は当時実在ながら記載を欠く。
 （ ）内は外城設置年代。
 高崎（天和元年）

3. 人口比率は各外城（郷）ごとに示してある。
 4. 寛永13年段階の判明する日向国諸外城人口の男女比率をみるに、約9割の外城で男子人口が全人口の57～61%、女子人口が39～43%近辺に平均的に集中することを踏まえ、当該期の須木が外の外城に比較してことさらに自然的・社会的に特別な環境や立場にはなかった日向の一般的外城の一つにすぎなかったことを考慮すると、須木の人口もまた外の外城と同じような比率で存在していたのではないかと推察される。したがって男女比率が判明している18外城の平均比率（男子約58%・女子約42%）をもって須木の男女各人口を算出してみると、総人口が1,047人に対し、男子人口として600人余、女子人口として約440人の数値が得られる。これを判明18外城分に合算して考慮すれば、寛永13年段階の日向国の男女各人口として上記に示したような推定人口を得ることができる。

【参考】男女人口不明の須木の分（1,047人）を除外した18外城（郷）分の人口合計と人口比率

	[男子]	[女子]	[合計]
	36,445	26,231	62,676
	(58.1%)	(41.9%)	(100.0%)

【第3表】寛永13年当時の鹿児島藩の推計総人口

		薩摩国	大隅国	日向国諸県郡	三カ国合計人口
推計人口		16～17万人 (100.0%)	11万人台前半 (100.0%)	63,723人 (100.0%)	33～34万人 (100.0%)
内訳	男子	9万人前後 (約58%)	6万人台前半 (約58%)	約37,100人 (約58%)	19万人台 (約58%)
	女子	7万人前後 (約42%)	4万人台後半 (約42%)	約26,600人 (約42%)	14万人台 (約42%)

- 注1. 本表は前掲の第2表の1・2・3に基づいて作成した。
 2. 本表の日向国の総人口は史料に基づく実数であり、内訳の男・女各人口も近似性の極めて高い数値である。
 3. 内訳の薩摩国と大隅国の男子・女子の各推計人口は、男女人口が判明する薩摩国41か郷及び大隅国31か郷のそれぞれの平均人口比率に基づいて算出したものである。

A. 当時実在ながら「堺目人数・武具注文」に記載を欠く

薩摩国の郷・私領

喜入（文禄太閤検地の後より肝付氏領）

鹿籠（慶長六年より喜入氏領）

蘭牟田（慶長十九年より樺山氏領）

甑島（元和五年設置）

水引（寛永五年設置）

東郷（寛永十年に日置島津氏領、延宝八年より藩直轄郷）

黒木（寛永十一年より豊州島津氏領）

久志（「堺目人数・武具注文」により当時の実在を確認）

B. 当時未設置による実在なきため記載を欠く薩摩国の郷・私領

佐志（明暦二年より佐志島津氏領）

長島（明暦二年設置）

山田（明暦二年設置、後の勝目郷）

樋脇（万治二年設置、設置当時は清敷郷）

今和泉（延享元年より今和泉島津氏領）

さて、寛永十三年当時実在ながら「堺目人数・武具注文」に人口記載を欠く、これら八ヶ郷には全体でどれくらい的人口があったのであろうか。この時期に近接して推計可能な人口史料がないので、明治維新直後の藩政最末期の人口データを計上する明治四年『薩隅日地理纂考』を参考にして、寛永期の薩摩国総人口の推計をあえて試みてみたい。

明治初期段階の薩摩国総人口は後述するように四六万四千人前後と推

定される。このうち上記八ヶ郷の合計人口は約五万一千人と推定されるので、これが薩摩国全体に占める比率は一一％余である。寛永期においてもこれら八ヶ郷の人口が明治初期とほぼ同じような比率で存在していたものと仮定した場合（少し粗い方法との批判を恐れつつ）、この分を加算して薩摩国総人口を算出すると一六万四千余人の数値が得られる。この数値をベースに考えると、寛永十三年段階の薩摩国総人口としておおよそ一六万人から一七万人前後の間を推定してもよいのではあるまいか。

次に大隅国の場合、三ヶ郷名が書き上げられ、その全てに人口記載があつて、それを集計した合計全体人口は八万九千八十二人（うち男子五万二千三六二人・女子三千七千四九五九人である）。

この時期の同国内には、前記三ヶ郷のほかに、左記Cに掲げた桜島・種子島・垂水・百引・市成・新城など六ヶ郷が存在していたことがわかつている。明治初期段階の大隅国推定総人口二一万人前後（後述）にこれら六ヶ郷が占める人口約五万四千人の占める人口比率は二五％余である。先に薩摩国について試みた同じ方法を用いて、この六ヶ郷の比率分を加算して寛永十三年段階の大隅国総人口を算出すると二一万二千人余の数値が得られる。以上の数値をベースにすると、寛永十三年段階の大隅国総人口としておおよそ二一万人前後から二二万人のあたりを推定できることになる。

C. 当時実在ながら「堺目人数・武具注文」に記載を欠く

大隅国の郷や私領

桜島（近世初頭より藩直轄郷）

種子島（近世初頭より種子島氏領）

垂水（慶長四年より垂水島津氏領）

百引（慶長十九年設置）

市成（慶長十九年より土岐氏II市成島津氏領）

新城（寛永十三年より正式に新城島津氏領）

D. 当時未設置による実在なきため記載を欠く大隅国の郷・私領

内之浦（寛永十七年より高山郷より分離）

鹿屋（正保二年、新城島津氏領を割いて藩直轄領）

高隈（明暦二年、申良より分離）

溝辺（万治二年、加治木島津氏領を割く）

花岡（享保九年、花岡島津氏領）

重富（元文元年、越前島津氏領）

以上の考察を通して得られた数値に基づいて、寛永十三年段階の薩摩藩の薩摩・大隅・日向三ヶ国分の総人口を推計すると、第三表に示したようにおおよそ三万人から三四万人ぐらゐの間にあつたのではないかと推測される。

蛇足になるが、寛永十三年（一六三六）段階にあつて薩摩藩本領地域の三ヶ国総人口三三万人から三四万人という数量をベースにして、十七世紀という時代が全国一般に顕著な人口増加が見られた時代であつたこと、及びほかの人口関係史料（後掲）によりこの時期の薩摩藩人口も漸増傾向を示していたことが確認できることなどを考慮すると、最初にふれた、約半世紀前の天正十五年（一五八七）に豊臣秀吉が九州平定のために南九州に進めた約三〇万人ともいわれる将兵の数は、おおよそ当時の

南九州の全人口にも匹敵するような、とてつもない大軍であつたことが理解される。

二、十七世紀中期の人口史料と薩摩藩人口

従来、承応から明暦・万治・寛文・延宝期に至る間の十七世紀中期についても薩摩藩の全体人口を示した史料は知られていなかった。

つい最近、筆者は『鹿児島県史料 旧記雑録拾遺家わけ七』（平成十年一月刊行）の編纂準備の史料収集を進める過程で、黎明館史料編さん委員の原口泉氏（鹿児島大学）から参考資料として提供していただいた志布志阿多家文書の複写史料中に寛文年間（一六六〇～一七〇〇年代初め）のものとの推測できる貴重な人口史料があることに気づいた。以下、この史料とこれに留められた薩摩藩人口について紹介したい。

1. 「阿多家諸書留」と寛文年間の薩摩藩人口

鹿児島県志布志町に阿多家という旧家がある。阿多家は島津氏の有力庶家町田氏から分出した庶家で、中世には南薩摩の阿多地方を領し、近世には、その初頭に衆中召移りによって日向国志布志へ移住し、以後幕末まで同郷の噺家として郷の最高行政の重職にあつた家柄で、戦前の高柳光寿氏の紹介により有名になった応永の南蛮船来航関係史料の所蔵家でもある。

この阿多家に、戦国末から十七世紀後期の近世前期に至る間の南九州や薩摩藩で起こった大きな歴史的出来事に関する簡略な古記録ほか、こ

これらの時期に薩摩藩政にあつかった歴代の家老名などを留めた全二三丁からなる表題不明の冊子（表紙もしくは題簽の欠失による）がある。史料を提供してくださった原口氏は「志布志阿多家御家老職書留」と仮題されているが、内容からみると「島津家古事并家老名等阿多家諸書留」（以下、「阿多家諸書留」といったところかもしれない）。

「阿多家諸書留」の本文記事中にみえる数多の年代のうち最も新しい最下限のものが大浦村長田門（加世田郷）関係の箇所にもみえる天和二年（一六八二）であり、これに次ぐのが代々家老記の箇所にもみえる延宝七年（一六七九）であること、そしてこれに留める内容がいずれも十七世紀後期以前のものであることを考えると、この史料はおそらくは十七世紀末から（一六八〇年代以降）下っても十八世紀初めの頃までに成立していたものではないかと推察される。

2. 寛文年間の薩摩藩人口

この「阿多家諸書留」の本文前段の記事中に、次のような薩摩藩の人口に関する記事が留められている。

一都合男女三十五萬四千三百式拾七人
内 拾七万八千百壹人 薩摩
拾一万五千四百五拾九人 大隅
六萬七百六十七人 日向国之内諸縣郡
一都合男女拾四万五千五百八拾八人
内 拾壹万式百拾壹人 本琉球

三万三千三百七拾七人 道之嶋
内 壹万三千三百卅式人 大嶋
四千八百式拾壹人 鬼界嶋
七千六百六拾四人 徳之嶋
四千五百九拾五人 永良部嶋
九百六拾五人 与論嶋

一 目すればわかるように、薩摩・大隅・日向国諸県郡の三ヶ国人口ほか道之嶋（奄美諸島）や琉球国までの各人口が把握できるほか、道之嶋所属の各島嶼の内訳人口までが示された興味そそられる人口関係史料である。さて、この「諸書留」に記された薩摩藩諸地域の人口データは、近世のいつの時期の薩摩藩の人口状況を示しているであろうか。

このデータが成立した確たる年代を特定することはできないが、本文を読んでいくと、おおよその時期を推定することを可能ならしめる記事が少なからず見い出される。以下、それらの記事をいくつか抽出して考察を加えた後、上記の人口データ成立の時期の特定を試みてみたい。

まず、本文冒頭部の書き出し箇所に「一御家 光久様まで式拾一代」「一御家初より寛文七年未迄五百年成」の記事を見い出す。前掲記事中「御家」（島津家）にとつて「式拾一代」目にあたる「光久様」とは、江戸時代第二代薩摩藩主で島津氏第十九代島津光久のことで、その治世は寛永十五年（一六三八）五月八日から貞享四年（一六八七）七月二十七日までであり、後掲記事中「御家」の始まりから「五百年」めにあたる「寛文七年」（一六六七）という年代は、前記島津光久の治世後半に

はいる。

次に、これらの記事に続いて、文禄・慶長期の朝鮮出兵の記事ほか、豊臣秀吉の九州平定にともなう天正十五年の薩摩下向、島津義久・義弘の死去、島津義弘が生涯においた諸所御座所、文禄太閤検地等に関する簡略な記事がみえるが、このうち文禄太閤検地に関して「文禄元年より同四年迄之御検地御奉行細川幽斎、但文禄元年より当今迄七十六年成」という記事を留める。この記事中「文禄（文禄）元年」（一五九二）より「七十六年」目になる「当今」とは寛文七年（一六六七）にあたる。そして、これらの記事の後に前掲の薩摩藩の総人口と地域別人口の記事、次いで寛文四年（一六六四）の寛文印知で確定した領地判物高関係の記事や、薩摩・大隅・日向国の周回距離、外城数（外城九三・私領一二で総数一〇五）、浦数と浦人口、藩有及びそれ以外の船数、藩営の牧数と放牧馬数、琉球の高頭などの統計数値、永野金山・芹ヶ野金山関係と加世田郷大浦村の長田門に関する記事と続いて、冊子後半部に全体の約半分を費やして戦国末々近世前期の島津家当主（貴久・光久）に仕えた代々の家老名とその在職期間に関する記事や寛文七年の幕府巡見使「津廻上使」関係の記事を収めている。

以上、「阿多家諸書留」の本文記事中にみえる最下限年代は天和二年（一六八二）であるのであるが、前段の寛文七年（一六六七）を中心とした記事の書き方や、領地判物高が寛文四年（一六六四）の寛文印知で確定した石高で記されていること、ならびに寛文七年に廻国の幕府巡見使関係の記事が収められていることなどを総合的に考慮するに、これに収めている各種の統計数値は大半が寛文年間（一六六〇～七〇年代）のものとして推定できるのではないかと思われる。

とするならば、これら統計数値のうち本稿の問題としている薩摩藩総人口及び国別人口をとどめた人口関係データは寛文期のいつ頃の薩摩藩の人口状況を示しているものであろうか。若干の考察を試みる。

「阿多家諸書留」の人口関係記事の前後に、文禄元年の島津領太閤検地（文禄太閤検地）開始から「当今（寛文七年）迄七十六年」という記事と寛文四年の領地判物高の書き上げ記事が収められていることから、これら人口関係記事が上記両記事に留められている寛文四年と寛文七年に近接した時期のものであるということには先ず容易に察せられるところである。

このことを、近世の薩摩藩でこのような藩全体の人口統計数値を計出できたのは、寛永十二年（一六三五）年以降、同藩が近世を通じて数年ごとに（後にはほぼ定期間隔）実施した宗門手札改という厳格な薩摩藩流人別改兼宗門改が実施された時のみであったという歴史事実に照らして、あわせて考えると、この人口関係の記事は上記両年代に近接した時期に実施された薩摩藩宗門手札改の人口調査によって得られたデータに依拠して記述されている可能性が大きい。両年代に近接して宗門手札改が実施された年代は寛文五年（一六六五）と寛文十二年（一六七二）である。「阿多家諸書留」の人口関係記事は、おそらくはこの両期のいずれかの人口調査結果を留めているものと思われる。

第四表・第五表をみれば明らかとなり、「阿多家諸書留」によれば寛文年間（一六六〇～七〇年代）の薩摩藩の人口は、薩摩国一七万八千一〇一人・大隅国一五万五千四九人・日向国六万七六七人・道之島三万一千三十七人・琉球国一万二一一人であり、薩隅日の三ヶ国合計人口三万五千三百三十七人、この三州分に道之島と琉球国合計分十四万一千

【第4表】寛文年間（1660～1670年代）鹿児島藩領の地域別人口

1. 薩隅日三カ国の地域別人口

地 域		人 口(人) <比率 %>	備 考
国 名	薩 摩 国	178,101 <50.3%>	※鹿児島藩の全人口の35.9%
	大 隅 国	115,459 <32.6%>	※鹿児島藩の全人口の23.3%
	日向国諸県郡	60,767 <17.1%>	※鹿児島藩の全人口の12.3%
薩隅日 三カ国人口		354,327 <100.0%>	※鹿児島藩の全人口の71.5%

2. 道之島・琉球国の島嶼の人口

島 嶼 名	道 之 島	31,377 <22.2%>	※鹿児島藩の全人口の6.3%
	琉 球 国	110,211 <77.8%>	※鹿児島藩の全人口の22.2%
道之島・琉球国人口		141,588 <100.0%>	※鹿児島藩の全人口の28.5%

3. 鹿児島藩領の総人口

鹿児島藩領 総人口	495,915	100.0%
-----------	---------	--------

[出典：曾於郡志布志阿多家所蔵「島津家古事并家老名等阿多家諸書留」]

注1. 本表の地域別人口比率はそれぞれ道之島・琉球国を含む鹿児島藩領の総人口を100とした場合の数値を示してある。

2. 薩摩・大隅・日向の三カ国分の合計人口に対する両地域ごとの人口比率は右端の備考欄に示してある。

【第5表】寛文年間（1660～1670年代）道之島（奄美諸島）の島別人口

島 名		人 口(人) <比率 %>	備 考
道 之 島	大 島	13,332 <42.5%>	
	鬼 界 島	4,821 <15.4%>	
	徳 之 島	7,664 <24.4%>	
	沖 永 良 部 島	4,595 <14.6%>	
	与 論 島	965 <3.1%>	
道之島 総人口		31,377 <100.0%>	※鹿児島藩の全人口の6.3%

[出典：曾於郡志布志阿多家所蔵「島津家古事并家老名等阿多家諸書留」]

注1. 本表の島別人口比率は、それぞれ道之島全人口を100とした場合の数値を示してある。

【第6表】 (貞享元年) 鹿児島藩三カ国の国別・身分階層別人口
(1684)

地 域		薩隅日三州武士・ 琉球官人士身分者 <比率 %>	諸士家来・寺社家 門前・町・在郷等 <比率 %>	合 計 人 口 <比率 %>	備 考
国	薩 摩 国	38,642 (10.9%)	144,734 (40.7%)	183,376 (51.6%)	※士人躰 7,794
	(鹿児島人口)	(10,001) (2.8%)	(39,095) (11.0%)	(49,096) (13.8%)	(士人躰 2,196)
	(外城分人口)	(28,641) (8.1%)	(105,639) (29.7%)	(134,280) (37.8%)	(士人躰 5,598)
名	大 隅 国	22,267 (6.3%)	95,316 (26.8%)	117,583 (33.1%)	※士人躰 4,031
	日向国諸県郡	16,071 (4.5%)	38,357 (10.8%)	54,428 (15.3%)	※士人躰 3,236
薩隅日 三カ国人口		76,980 (21.7%)	278,407 (78.3%)	355,387 (100.0%)	

[出典：東京大学史料編纂所蔵「(貞享元年)薩藩幕府諸国巡見使応答案 全]

- 注1. 出典史料中に道之島についての人口記載なし。よって当該期の道之島人口は不明である。
2. 本表の人口比率は、それぞれ薩隅日三カ国人口を100とした場合の数値を示してある。

五八八人を加えた薩摩藩総人口は四九万五千九一五人となっている。

三、十七世紀後期の人口史料と薩摩藩人口

この時期以降になると各種の人口関係史料が知られているが、十七世紀後期の人口史料としては、古く戦前の『鹿児島県史 第二巻』にも一部の記載事項に基づく薩隅日三ヶ国と琉球国の分(「不確定」と注あり)の人口が掲載されて知られている「薩藩幕府諸国巡見使応答案(貞享元年)」(東京大学史料編纂所蔵「島津家文書」)がある。

この史料の原題が「寛文七年幕府諸国巡見使・延宝九年右 応答案」であるところから、現在知られている上記史料題が適切かどうかは問題のあるところであるが、それは置いて、この史料本文の末尾の「貞享元年甲子」(一六八四)に実施された「札改」(薩摩藩宗門手札改)の調査結果に基づいた鹿児島城下はじめ、薩摩国・大隅国・日向国の三ヶ国諸郷分の人口、及び道之島を除く本琉球分の人口が大まかな身分階層別の内訳人口とともに留められている。

これによれば、第六表にみるとおり、十七世紀後期の貞享元年(一六八四)段階の薩摩藩の人口は、薩摩国一八万三千三七六六・大隅国一七万七千五八三人・日向国五万四千四二八八・道之島は人口不明、琉球国十二万九千九百九十五人であり、これに基づく薩隅日の三ヶ国合計人口三十五万五千三八七人、この三州分に道之島と琉球国が加わった薩摩藩総人口を五万七千〇八三人としている。

ところで、この「幕府諸国巡見使 応答案」に掲げられた琉球国総人

口の記事「男女拾貳万九千九百九十五人 本琉球」について、『鹿児島県史 第二巻』は上記したように「(不確実) 一二九、九九五」として疑問を呈しているのであるが、前述したように、これより一〇〇二〇年くらい前代の寛文年間の琉球国人口が一万人余であり、約二〇年後の宝永三年(一七〇六)の人口一五万五千人余である(後述)ことに照らして考えれば、この「応答案」に留められた貞享元年の琉球国総人口の記事は、当時の琉球国の人口の実情をほぼ正確に伝えている史料として受け止め活用しても差し支えないものと思われる。

四、十八世紀前期の人口史料と薩摩藩人口

1. 「列朝制度」と十八世紀初頭の薩摩藩人口

十八世紀前期の人口史料としては、まず「列朝制度 卷之六」(都城島津家所蔵)に収められている宝永三年(一七〇六)の薩摩藩宗門手札改の際の人口調査に基づく統計資料を挙げる事ができる。この史料は十八世紀の初頭段階における薩摩藩人口について、その状態を薩摩国・大隅国・日向国諸県郡・道之島・琉球国の各地域別でもって男女別ほか細かく身分別に把握できる非常に貴重な史料といえる。

第七表(第九表にみるとおり、この「列朝制度」によると、十八世紀の初頭の宝永三年(一七〇六)段階の薩摩藩の人口は薩隅日三ヶ国分の合計人口で四六万一千九六一人(国別の内訳は記載なく不明)、そして道之島四万九千四七二人・琉球一五万五〇八人となっている。したがって薩隅日三ヶ国分に道之島と琉球合計分の人口二〇万四千五八〇人を

加えた薩摩藩総人口は六六万六千五四一人である。

2. 享保期の人口史料と薩摩藩人口

享保期の薩摩藩の国別人口や総人口を具体的な数値でもって示した人口史料は今もって知られていない。しかしながら、ある程度推察できる史料として「享保六年丑十二月十日 一薩摩大隅日向諸県郡御領国田畑町歩男女人数、公義江被書上候帳面写一冊 一右一卷御用二被仰置候郡奉行土師孫右衛門書付一通 御記録所」(東京大学史料編纂所蔵)と「大御支配次第帳」(鹿児島県立図書館所蔵)などがある。

長い表題の前者は、享保六年(一七二二)、薩摩藩本領内の薩摩国・大隅国・日向国諸県郡地域の田畑耕地面積ほか新田・新田見取場の田畑面積、及び百姓ほか農村部に居住して農業労働に従事する領民人口などの調査報告を指令した幕命にに応じて、その年末に薩摩藩が幕府に提出した報告書写控であり、後者の「大御支配次第帳」は、この翌七年から五年間にわたって薩摩藩が実施した享保内検(領内総検地)が終了した直後の享保十三年(一七二八)に、同検地の支配方役人だった榎本新兵衛が内検中に発せられた多くの藩庁指令から重要箇所を書き抜き、内検関係の各種統計資料と合わせて後世のために書き留めたものである。

前者の幕府への享保六年報告書写によると、この頃の薩摩・大隅・日向三ヶ国の薩摩藩領域の在郷に居住して農業労働に直接関与している百姓ほかの人口は、薩摩国一四万九千人余・大隅国一万二千人六百余・日向国諸県郡四万一千九百人余、合わせて三〇万三千六百余人余であったことがわかる(第一〇表)。

この三〇万三千余人の人口の具体的内訳は、この史料からは知ること

【第7表】（宝永3年（1706））鹿児島藩の地域別の男女別及び身分別人口

1. 地域別の男女別人口

	薩隅日 三ヶ国 (比率 %)	道之島 (比率 %)	琉球国 (比率 %)	総人口 (比率 %)
男子人口	26,7358 (40.1%)	25,051 (3.8%)	76,026 (11.4%)	368,435 (55.3%)
女子人口	194,603 (29.2%)	24,421 (3.7%)	79,082 (11.9%)	298,106 (44.7%)
合計	461,961 (69.3%)	49,472 (7.4%)	155,108 (23.3%)	666,541 (100.0%)

【出典：都城島津家所蔵「列朝制度 卷之六」（『藩法集 8 鹿児島藩 上』所収）

2. 地域別の身分別人口

	薩隅日三州 (比率 %)	道之島	琉球国 (比率 %)	総人口 (比率 %)
1. 直士 (男女)	92,805 (20.09%)			92,805 (13.92%)
2. 直山伏 (男)	379 (0.08%)			379 (0.06%)
3. 出家 (男)	1,431 (0.31%)			1,606 (0.24%)
4. 茶道坊主 (男)	84 (0.02%)		175 (0.11%)	84 (0.01%)
5. 檢校・平家座頭 (男)	10 (%)			10 (%)
6. 直医師 (男)	86 (0.02%)			86 (0.01%)
7. 社家 (男女)	4,974 (1.08%)			4,974 (0.75%)
8. 内侍 (女)	138 (0.03%)			138 (0.02%)
9. 一所衆内衆 (男女)	33,446 (7.24%)			33,446 (5.02%)
10. 又内医師 (男)	11 (%)			11 (%)
11. 兵具所組足輕 (男女)	2,034 (0.44%)			2,034 (0.31%)
12. 廳付中間 (男女)	801 (0.17%)			801 (0.12%)
13. 諸座付 (男女)	1,125 (0.02%)			1,125 (0.17%)
14. 七島 (男女)	1,159 (0.03%)			1,159 (0.17%)
15. 寺門前下々迄 (男女)	6,777 (1.47%)			6,777 (1.02%)
16. 門前山伏 (男)	50 (0.01%)			50 (0.01%)
17. 上・下・西田町人 (男女)	7,023 (0.52%)			7,023 (1.05%)
18. 在郷 (男女)	213,169 (46.14%)	49,302	127,780 (82.38%)	390,241 (58.55%)
19. 岡町 (男女)	9,326 (2.02%)	(99.66%)		9,326 (1.34%)
20. 浦町 (男女)	38,053 (8.24%)			38,053 (5.70%)
21. 伊集院苗代川 (男女)	749 (0.16%)			749 (0.11%)
22. 町山伏 (男)	22 (%)			22 (%)
23. 在郷山伏 (男)	158 (0.03%)			158 (0.02%)
24. 上方并他国居付百姓 (男女)	876 (0.19%)			876 (0.13%)
25. 船手付 (男女)	1,049 (0.23%)			1,049 (0.16%)
26. 直士并所座付の下人并又内 (男女)	42,041 (9.10%)			42,041 (6.31%)
27. 座頭 (男)	248 (0.05%)			248 (0.04%)
28. ごぜ (女)	28 (%)			28 (%)
29. 又内山伏 (男)	279 (0.06%)			279 (0.04%)
30. 上方并江戸他国抱者并居付 下人 (男女)	3,109 (0.67%)			3,109 (0.45%)
31. 上方并江戸他国牢人 (男女)	170 (0.04%)			170 (0.03%)
32. 入墨流人 (男)	94 (0.02%)	1	5 (%)	100 (0.01%)
33. 諸島流人 (男)・道之島流人	98 (0.02%)	(男女) 169		267 (0.04%)
35. 笠野原へ苗代川移者 (男女)	162 (0.04%)	(0.34%)		162 (0.02%)
36. 官人士 (男女)			14,014 (9.03%)	14,014 (2.10%)
37. 官人下人家来 (男女)			13,134 (8.47%)	13,134 (1.97%)
合計人口	461,961 (100.00%)	49,472 (100.00%)	155,108 (100.00%)	666,541 (100.00%)

【出典：都城島津家所蔵「列朝制度 卷之六」（『藩法集 8 鹿児島藩 上』所収）

注1. 上表1の地域別・男女別の人口比率は、それぞれ鹿児島藩領総人口（含、道之島・琉球国）を100とした場合の数値を示してある。

2. 上表2の地域別・身分別の人口比率は、それぞれの地域ブロックの合計人口を100として、地域ブロックごとに身分別に示してある。

【第8表】（宝永3年（1706））鹿児島藩領の地域別・男女別人口、及び身分階層別人口

1. 地域別・男女別人口

a. 薩摩・大隅・日向諸県郡の男女別人口

地 域	男子（人） ＜比率 %＞	女子（人） ＜比率 %＞	合計人口 ＜比率 %＞	備 考
薩隅日 三カ国人口	267,358 ＜57.9%＞	194,603 ＜42.1%＞	461,961 ＜100.0%＞	※鹿児島藩の 総人口の69.3%

b. 道之島・琉球国の島嶼別男女人口

島 嶼 名	道 之 島	25,051 ＜12.2%＞	24,421 ＜11.9%＞	49,472 ＜24.2%＞	藩総人口の7.4%
	琉 球 国	76,026 ＜37.1%＞	79,082 ＜38.7%＞	155,108 ＜75.8%＞	藩総人口の7.4%
道之島・琉球国人口		101,077 ＜49.4%＞	103,503 ＜50.6%＞	204,580 ＜100.0%＞	※鹿児島藩の 総人口の30.7%

c. 鹿児島藩領の男女別総人口

鹿児島藩領 総人口 (含、道之島・琉球国)	368,435 ＜55.3%＞	298,106 ＜44.7%＞	666,541 ＜100.0%＞	※ 100.0%
--------------------------	--------------------	--------------------	---------------------	-------------

2. 身分階層別人口

a. 薩摩・大隅・日向諸県郡の男女別人口

地 域	薩隅日三州武士・ 琉球官人士身分者	諸士家来・寺社家 門前・町・在郷等	合 計 人 口	備 考
薩隅日 三カ国人口	137,324 ＜29.7%＞	324,637 ＜70.3%＞	461,961 ＜100.0%＞	※鹿児島藩の 総人口の69.3%

b. 道之島・琉球国の島嶼別・身分階層別人口

島 嶼 名	道 之 島	0 ＜0%＞	49,472 ＜24.2%＞	49,472 ＜24.2%＞	藩総人口の7.4%
	琉 球 国	14,189 ＜6.9%＞	140,919 ＜68.9%＞	155,108 ＜75.8%＞	藩総人口の23.3%
道之島・琉球国人口		14,189 ＜6.9%＞	190,391 ＜93.1%＞	204,580 ＜100.0%＞	※鹿児島藩の 総人口の30.7%

c. 鹿児島藩領の身分別総人口

鹿児島藩領 総人口 (含、道之島・琉球国)	151,513 ＜22.7%＞	515,028 ＜77.3%＞	666,541 ＜100.0%＞	※ 100.0%
--------------------------	--------------------	--------------------	---------------------	-------------

〔出典：都城島津家所蔵「列朝制度」中の「宝永三年戊戌（宗門手札改）」〕

- 注1. 身分別人口のうち薩隅日三州の武士人口は御直士から諸座付士までの13階層の人口合計人数を掲げる。
2. 身分別人口のうち琉球官人士身分者人口は官人士とその出家者の合計数値である。
3. 薩隅日の三カ国人口324,637人中には鹿児島城下住居の「上・下・西田町人（男女）」7,023人のほか「寺門前下々迄（男女）」（全6,777人）や「直士并所座付の小人并又内（男女）」（全42,041人）の一部人口等も含む。上記注2の後の二人口の約半数を鹿児島城下居住人口とみた場合、一般郷村（外域）居住の人口はおおよそ29万人～30万人前後に落ち着くものと推定される。
4. 男女別及び身分別の人口比率は、薩隅日三カ国及び南島（道之島・琉球国）それぞれの合計人口を100とした場合の各地域の数値をブロック単位で示してある。
5. 実際の鹿児島藩総人口に占めるそれぞれの人口比率は備考欄に示した。

【第9表】（宝永3年（1706））鹿児島藩領の地域別・男女別人口、及び身分階層別人口

1. 地域別・男女別人口

地 域		男子 (人) <比率 %>	女子 (人) <比率 %>	合計人口 <比率 %>	備 考
国	薩摩国	不 明	不 明	不 明	
	大隅国	不 明	不 明	不 明	
	日向諸県郡	不 明	不 明	不 明	
名	道之島 (男女別比率)	25,051 <50.6%>	24,421 <49.4%>	49,472 <100.0%>	総人口の7.4%
	琉球国 (男女別比率)	76,026 <49.0%>	79,082 <51.0%>	155,108 <100.0%>	総人口の23.3%

薩隅日三カ国人口 (男女別比率)	267,358 <57.9%>	194,603 <42.1%>	461,961 <100.0%>	※鹿児島藩総人口 の69.3%
道之島・琉球国人口 (男女別比率)	101,077 <49.4%>	103,503 <50.6%>	204,580 <100.0%>	※鹿児島藩総人口 の30.7%
鹿児島藩領 総人口 (男女別比率)	368,435 <55.3%>	298,106 <44.7%>	666,541 <100.0%>	※100.0% 含、道之島・琉球国

2. 身分階層別人口

地 域		薩隅日三州武士・ 琉球官人士身分者	諸士家来・寺社家 門前・町・在郷等	合 計 人 口	備 考
国	薩摩国	不 明	不 明	不 明	
	大隅国	不 明	不 明	不 明	
	日向諸県郡	不 明	不 明	不 明	
名	道之島 (身分別比率)	0 <0%>	49,472 <100.0%>	49,472 <100.0%>	総人口の7.4%
	琉球国 (身分別比率)	14,189 <9.1%>	140,919 <90.9%>	155,108 <100.0%>	総人口の23.3% 含、出家175人

薩隅日三カ国人口 (身分別比率)	137,324 <29.7%>	324,637 <70.3%>	461,961 <100.0%>	※鹿児島藩総人口 の69.3%
道之島・琉球国人口 (身分別比率)	14,189 <6.9%>	190,391 <93.1%>	204,580 <100.0%>	※鹿児島藩総人口 の30.7%
鹿児島藩領 総人口 (身分別比率)	151,513 <22.7%>	515,028 <77.3%>	666,541 <100.0%>	※100.0% 含、道之島・琉球国

【出典：都城島津家所蔵「列朝制度」中の「宝永三年戊改（宗門手札改）」による。】

- 注1. 身分別人口のうち薩隅日三州の武士人口は御直士から諸座付士までの13階層の人口合計人数を掲げる。
2. 身分別人口のうち琉球官人士身分者人口は官人士とその出家者の合計数値である。
3. 薩隅日の三カ国人口324,637人中には鹿児島城下住居の「上・下・西田町人（男女）」7,023人のほか「寺門前下々迄（男女）」（全6,777人）や「直士并所座付の下人并又内（男女）」（全42,041人）の一部人口等も含む。上記注2の後の二人口の約半数を鹿児島城下居住人口とみた場合、一般郷村（外域）居住の人口はおおよそ29万人～30万人前後に落ち着くものと推定される。
4. 男女別及び身分別の人口比率は、それぞれの地域ブロック毎にその人口を100とした場合の比率を男女別及び身分階層別に示してある。

はできないが、ただ、この直後の享保内検期間中の（一七二二～一七二七）の人口調査結果を留める「大御支配次第帳」に収める「薩隅日三州一紙惣総」には在郷男女二五万七千〇六二人・野町男女九千八百六十四人・浦水手并塩屋男女四万二千八七四人・寺門前男女三三六六人・上下町（城下）男女六千四〇二人、合わせて薩隅日三カ国の在郷・野町・浦浜等人口三万六千五四四人と記し、「薩隅日琉球高弘総」には琉球・道之島まで含めた薩摩藩の在郷人口を四五万一千八四九人、うち琉球分一二万九千六四二人・道之島分六万二千三〇四人・薩隅日三カ国分二五万九千九〇三人としている。掲げる数量には若干の差異が認められるが、いずれにせよ享保内検期の百姓人口が二六万人に近い二五万人台後半の数量を示していたことは確実である。

ところで、この百姓人口の薩隅日全人口に占める比率が、先にみた宝永三年（一七〇六）段階とほぼ変わることがなかった（在郷人口約四六％）と仮定して享保内検期の薩隅日人口を算出してみると、五五万人台後半から五六万人前半の数値を得ることができる。

それでは、同じころ道之島と琉球国にはどれくらいの人口があったのだろうか。「大御支配次第帳」に収める統計資料の一つ「薩隅日琉球高弘総」には享保内検期（一七二二～一七二七）の道之島の百姓人口として六万二千三〇四人（男子三万一千〇八六八人・女子三万一千二一八八人）を掲げている。

道之島には、この外に若干の士身分者と流人が存在するが、この史料では不明である。第七表や第一二表の4を見れば明らかかなように、その人口は内検期の少し前代にあたる宝永三年（一七〇六）で一七〇〇人（流人のみ）、一世紀後の文政九年（一八二六）でも八百人余を数えるのみで

【第10表】（保6年（1721））薩隅日の国別の男女別農村人口

地	域	男子(人) <比率 %>	女子(人) <比率 %>	合計人口 <比率 %>	備	考
国	薩摩国	84,328 <27.8%>	64,711 <21.3%>	149,039 <49.1%>		
	大隅国	63,968 <21.1%>	48,648 <16.0%>	112,616 <37.1%>		
名	日向諸県郡	24,744 <8.2%>	17,243 <5.7%>	41,987 <13.8%>		
薩隅日州合計人口		173,040 <57.0%>	130,602 <43.0%>	303,642 <100.0%>		

【出典：東京大学史料編纂所蔵「享保六年丑十二月十六日薩摩・大隅・日向諸縣郡御領内田畑歩男女人口公義江被書上候帳面写一冊」】

注：国別・男女別の人口比率はそれぞれ鹿児島藩総人口を100とした場合の数値を示してある。

ある。この数値を道之島百姓人口と合わせ考えると、内検期の道之島総人口としておよそ六万二千五百人前後を推定できることになる。

「大御支配次第帳」には、内検期の琉球国人口について「男女拾貳万九千六百四拾貳人 中山王領 内男女五万七千六百八拾五人 女七万九千九百五十七人」の記事を掲げる。

これに掲げる総人口一三万弱の人口の内訳の男女人口比をみた場合、男子の比率約四四・五%（五万七千六百八人余）、女子の比率五五・五%（七万一千九百人余）となり、全体に占める女子の人口比率がかなり高い。これを宝永三年（一七〇六）の統計資料でみると男子約四九・四%（七万六千人余）、女子の比率五〇・六%（七万九千人余）となっていて、宝永期に比べれば、内検期の男子人口は数量・比率ともかなり落ち込んでいて、少し不自然な感が否めない。したがって内検期の総人口一三万弱、とりわけ男子人口五万七千六百八人余という数値が正しく当時の人口の実情を示しているのか、記載の数値以外に欠落人口があるのか疑問が残るのであるが、ほかに考証の手がかりになるような記事が「大御支配次第帳」にはないし、当該期の史料も見いだせない。

したがって、これらの数値が史料の示すとおり当時の琉球人口の実情を示すものと解するならば、享保内検期の琉球総人口はおおよそ十三万人前後を推移していたのではないかと推測できることになるが、仮に史料にみる男子集計数値の外に何らかの欠落人口の存在があったとしても、しかも当時の琉球人口の男女比が宝永期とほとんど変わることのない同じくらいのものであったと想定して算出すると、内検期の琉球国総人口は一四万人台を推移していたことが推測されることになる。

この内検期の琉球国人口については、薩隅日同様、今後の検討課題に

残しておくことにして、本稿では総人口をとりあえず一三万人前後から一四万人台ぐらいたったのではないかと幅を持たせ推定しておきたい。

以上の推計人口に基づいて、享保内検期（一八二〇年代前半）の薩隅日三ヶ国人口に道之島・琉球分を加えた薩摩藩総人口を計出すると、七五万人から七六万人の辺りの推定人口が得られることになるが、いかなるものであろうか。

五、十八世紀中期の薩摩藩人口

十八世紀半ばの薩摩藩人口については、『鹿児島県史』（第二巻）が貴重なデータ群を提供してくれている。筆者は目下のところ『県史』以上のデータや史料情報を持ち合わせていない。

『県史』によれば、この時期の薩摩藩の総人口は左記するような推移をみせている。

元文 二年（一七三七）	八一万七千六三五人
延享 二年（一七四五）	八四万三千八〇八人
宝曆 三年（一七五三）	八七万二千〇八三人
宝曆十一年（一七六一）	八七万九千五三九人
明和 九年（一七七二）	八八万三千九六九人

六、十八世紀後期の人口史料と薩摩藩人口

『県史』には十八世紀後期の天明六、七年（一七八六、七）の総人口として八四万二千四〇六人を掲げた後、寛政十二年（一八〇〇）の薩隅日三ヶ国と道之島・琉球国の人口、及び薩摩藩総人口を掲げているが、その出典は、寛政十二年に薩摩藩が実施した宗門手札改の人口調査結果に基づいて作成された人口史料「薩隅日琉球諸島人口調」である。そして、この関連史料が「列朝制度 卷之六」（寛政十二年申改（宗門手札改））に見い出される。さらには、「列朝制度」にはその記事の直前にもう一つ、寛政前期に薩摩藩を下向・廻国した幕府巡見使のための応答用資料（寛政御答書）として寛政五、六年頃に作成されたものと推測される『県史』が掲げない人口史料が収められている。

順序逆になるが、第二一表の1に見るように、まず後者の「寛政御答書」によれば 寛政五、六年（一七九三、四）頃の薩隅日三ヶ国人口は六二万三千六二七人だったことがわかる。

第一一表の2は前者の『県史』が掲げる「薩隅日琉球諸島人口調」に基づく『県史』の資料と「列朝制度」の「寛政十二年申改（宗門手札改）」によって作成したものである。これに拠ると、一般集計除外分（慶賀・穢多・行脚）を含めた十八世紀最末期段階における寛政十二年（一八〇〇）の薩摩藩人口は、薩摩国三七万三千〇四六人・大隅国一七万七千三二二人・日向諸県郡七万六千九七一人・道之島七万四千五九三人・琉球国一五万五千六五〇人、そして薩隅日三ヶ国の合計人口六二万七千三二九人、これに道之島・琉球国合計分二二万二四三人を加えた薩摩藩総人口は八五万七千五六一人となっている。

七、十九世紀前期の人口史料と薩摩藩人口

文政十一年に改編された「薩藩政要録 四」（鹿児島大学附属図書館所蔵「玉里文庫」）に所収する「三九 宗門手札御改人数総之事」は、十九世紀前期の薩摩藩の代表的な人口史料といえる。

藩政にたざさわる薩摩藩の政治指導者層の便益に供するために、藩政の要務に関わる諸制度や規定などをはじめ、藩政運営上参考となる政治・経済・軍事・宗教ほかさまざまな情報や知識・データ類を網羅的に集めて編纂された藩政要覧集の史料集ともいえる「薩藩政要録」に収められたこの統計資料は、直前の文政九年（一八二六）に実施された薩摩藩宗門手札改の人口調査によって得られた各種の集計データを、国・地域別、公・私領別・身分階層別・男女別など細かく我々に提供してくれていて、人口面から近世末期の薩摩藩の身分社会の実態や構造をうかがうには、後述の嘉永期のものとともに極めて貴重な人口史料といえる。

この文政九年の統計「宗門手札御改人数総之事」によれば、第二一表や第一四表にみるとおり、一般集計除外分人口を含めた十九世紀前期の薩摩藩人口は、薩摩国四〇万四千七七四人・大隅国一六万九千八三〇人・日向諸県郡七万六千五九八人・道之島七万七千六六七人・琉球国一四万五六五人、そして薩隅日三ヶ国の合計人口が六五万一千二〇二人、これに道之島と琉球国の合計分二二万八千二二二人を加えた薩摩藩総人口は八六万九千四三四人となっている。

【第11表】（寛政年間（1789～1800））鹿児島藩の身分階層別、及び地域別人口

1. 寛政6年（1794）頃か、鹿児島藩の薩隅日三カ国の身分階層別・男女別人口

	男子（人） <比率 %>	女子（人） <比率 %>	合計人口 <比率 %>	備 考
武士及び準士身分階層者の人口 (人跡士・その家族男女、ほかに人跡外士並諸座付諸士家来を含む)	124,733 <20.0%>	101,180 <16.2%>	225,913 <36.2%>	※人跡士総数 31,256人
非支配の一般庶民階層の人口 (寺社・町・浜・在郷)	214,032 <34.3%>	183,682 <29.5%>	397,714 <63.8%>	
合 計 人 口 (薩隅日三カ国分)	338,765 <54.3%>	284,862 <45.7%>	623,627 <100.0%>	

[出典：都城島津家文書「列朝制度」中の「寛政御答書」]

2. 寛政12年（1800）鹿児島藩の国・島嶼別人口

a. 薩隅日三カ国の地域別人口

地 域	合 計 口	(含、集計除外人口)	備 考	
国 名	薩 摩 国 (鹿児島 人口) (薩摩諸郷人口)	370,776 <59.5%> (61,945) (9.9%) (308,821) (49.5%)	(373,046) ※内除外分1,051	※鹿児島藩の全人口の 43.2% (藩全人口の7.2%) (藩全人口の36.0%)
	大 隅 国	176,317 <28.3%>	(177,312) ※内除外分 995	※鹿児島藩の全人口の 20.6%
	日向国諸県郡	76,278 <12.2%>	(76,971) ※内除外分 693	※鹿児島藩の全人口の 8.9%
薩隅日三カ国人口	623,371 <100.0%>	(627,329) ※内除外分3,958	※鹿児島藩の全人口の 72.7%	

b. 道之島・琉球国の島嶼別人口

島 嶼 名	合 計 口	(含、集計除外人口)	備 考
道 之 島	74,593 <32.4%>	(74,593) ※内除外分 0	※鹿児島藩の全人口の 8.7%
琉 球 国	155,637 <67.6%>	(155,650) ※内除外分 13	※鹿児島藩の全人口の 18.1%
道之島・琉球国人口	230,230 <100.0%>	(230,243) ※内除外分 13	※鹿児島藩の全人口の 26.8%

c. 計上分の鹿児島藩総人口とその他集計除外人口

計上分の鹿児島藩総人口 (含、道之島・琉球国)	853,591	※鹿児島藩の全人口の 99.5%
その他の集計除外分人口 (慶賀・穢多・行脚)	3,971	※鹿児島藩の全人口の 0.5%

d. 実際の鹿児島藩領の全人口

鹿児島藩領 総人口 (含、道之島・琉球国)	857,562	※鹿児島藩の全人口の 100.0%
--------------------------	---------	----------------------

[出典：都城島津家所蔵「列朝制度」中の「寛政十二年申改（宗門手札改）」]

- 注1. 上表1の身分階層別・男女別の人口比率はそれぞれ薩隅日三カ国の合計人口を100とした場合の数値を示す。
 2. 上表2の地域別の人口比率は、薩隅日三カ国及び南島（道之島・琉球国）それぞれの合計人口を100とした場合の各地域の数値をブロック単位で示してある。
 3. 上表2の備考欄には、実際の鹿児島藩総人口（含、集計除外人口）に占める各地域ごとの人口比率を示した。

第12表 (文政9年<1826>) 鹿児島藩の国別の身分階層・男女別人口(1)

1. 薩摩国の身分階層別・男女別人口
A. 一般集計分

地 域	男 子 (人)	女 子 (人)	合 計 (人)	備 考
薩 摩 国 人 口 総 計	・ ・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ ・ , ・ ・ ・	4 0 1 , 8 6 4	※男女内訳不明
a. 鹿児島人口			72,350人	
① [土身分階層者]	(計 9,093)	(計 8,007)	(計 17,100)	
土人躰	4,325		4,325	
人躰外士	4,466		4,466	
土妻子		8,003	8,003	
福昌寺役人	3		3	
同人躰外士	2		2	
同妻娘		4	4	
出家	297		297	
② [在・町・浜等身分者]	(計 10,176)	(計 9,300)	(計 19,476)	
鹿児島近在	7,592	6,693	14,285	
鹿児島城下三町	2,447	2,494	4,941	
横井野町	75	78	153	
荒田浜	55	33	88	
浄楽并火地神座問家内	7	2	9	
③ [その他身分者]	(計 ・ ・ , ・ ・ ・)	(計 ・ ・ , ・ ・ ・)	(計 35,774)	※男女内訳不明
諸士家来并足軽・諸 座付・寺社門前	・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ , ・ ・ ・	35,774	
b. 直轄領38カ郷(七島・三島を 含む)			261,514人	
① [土身分階層者]	(計 30,608)	(計 27,515)	(計 58,123)	
郷土人躰	10,846		10,846	
人躰外士	19,523		19,523	
郷土妻娘		27,515	27,515	
出家	239		239	
② [在・町・浜等身分者]	(計 108,874)	(計 93,794)	(計 194,668)	
諸在	82,238	75,774	158,012	
苗代川	721	669	1,390	
浦浜	16,457	15,923	32,380	
野町	1,458	1,428	2,886	
③ [その他身分者]	(計 ・ ・ , ・ ・ ・)	(計 ・ ・ , ・ ・ ・)	(計 8,723)	※男女内訳不明
郷土下人并足軽・中宿・ 諸座付・寺社門前 赦免居付・遠島者	・ ・ , ・ ・ ・ 55	・ ・ , ・ ・ ・	8,668 55	
c. 私領13カ郷			68,000人	
① [土身分階層者]	(計 12,・ ・ ・)	(計 11,・ ・ ・)	(計 23,421)	
家来人躰	4,336		4,336	
家来人躰外	7,816		7,816	
家来妻娘		11,059	11,059	
寺社家	・ ・	・ ・	142	※男女内訳不明
出家	68		68	
② [在・町・浜等身分者]	(計 20,258)	(計 18,609)	(計 38,867)	
百姓	17,122	15,904	33,026	
浦浜	2,874	2,434	5,308	
野町	262	271	533	
③ [その他身分者]	(計 ・ ・ , ・ ・ ・)	(計 ・ ・ , ・ ・ ・)	(計 5,712)	※男女内訳不明
家中并足軽・私領居住 ・寺社門前末々	・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ , ・ ・ ・	5,712	

B. 一般集計除外分

穢多・慶賀	・ ・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ ・ , ・ ・ ・	2,910 ※男女内訳不明	鹿児島 105 諸郷 2,231・私領 574
-------	---------------	---------------	------------------	----------------------------

C. 実際の薩摩国総人口

総人口(含、穢多・慶賀)	・ ・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ ・ , ・ ・ ・	4 0 4 , 7 7 4 ※男女内訳不明	一般集計分 401,864 集計除外分 2,910
--------------	---------------	---------------	--------------------------	------------------------------

2. 大隅国の身分階層別・男女別人口

A. 一般集計分

地 域	男子(人)	女子(人)	合計(人)	備 考
大 隅 国 人 口 総 計	・ ・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ ・ , ・ ・ ・	1 6 8 , 6 6 0	※男女内訳不明
a. 直轄領35カ郷(屋久島・口永良部島を含む)			128,994人	
① [士身分階層者]	(計 18,451)	(計 14,592)	(計 33,043)	
郷士人跡	8,031		8,031	
人跡外郷士	10,255		10,255	
郷士妻娘		14,952	14,952	
出家	165		165	
② [在・町・浜等身分者]	(計 48,242)	(計 42,861)	(計 91,103)	
諸在	42,174	37,560	79,734	
浦浜	3,728	3,247	6,975	
野町	1,837	1,594	3,431	
笠野原	387	371	758	
半浦	116	89	205	
③ [その他身分者]	(計 ・ , ・ ・ ・)	(計 ・ , ・ ・ ・)	(計 4,848)	
郷士下人并足軽・中宿	・ , ・ ・ ・	・ , ・ ・ ・	4,821	※男女内訳不明
・ 諸座付・寺社門前・				
公義流人・遠島者	27		27	公義流人10・遠島者17
b. 私領7カ郷			39,666人	
① [士身分階層者]	(計 7,・ ・ ・)	(計 6,・ ・ ・)	(計 14,183)	
家来人跡	3,430		3,430	
家来人跡外	4,411		4,411	
家来妻娘		6,222	6,222	
寺社家	・	・	47	※男女内訳不明
出家	73		73	
② [在・町・浜等身分者]	(計 10,366)	(計 7,991)	(計 18,357)	
百姓	6,957	5,479	12,436	
浦浜	3,016	2,224	5,240	
野町	96	75	171	
塩屋	297	213	510	
③ [その他身分者]	(計 ・ , ・ ・ ・)	(計 ・ , ・ ・ ・)	(計 7,126)	
家中并足軽・寺社門前	・ , ・ ・ ・	・ , ・ ・ ・	7,111	※男女内訳不明
末々				
公義流人・遠島者	15		15	公義流人11・遠島者4

B. 一般集計除外分

穢多・慶賀	・ ・ ・	・ ・ ・	1,170 ※男女内訳不明	諸郷 997 私領 173
-------	-------	-------	------------------	------------------

C. 実際の大隅国総人口

総人口(含、穢多・慶賀)	・ ・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ ・ , ・ ・ ・	1 6 9 , 8 3 0 ※男女内訳不明	一般集計分 168,660 集計除外分 1,170
--------------	---------------	---------------	--------------------------	------------------------------

3. 日向国諸県郡の身分階層別・男女別人口

A. 一般集計分

地 域	男子(人)	女子(人)	合計(人)	備 考
日向国(諸県郡)	・ ・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ ・ , ・ ・ ・	75,654	※男女内訳不明
a. 直轄領19カ郷			56,663人	
① [士身分階層者]	(計 10,・ ・ ・)	(計 8,・ ・ ・)	(計 18,120)	
郷士人跡	4,354		4,354	
人跡外郷士	5,321		5,321	
郷士妻娘		7,702	7,702	
出家	77		77	
飯隈山・同家内	50	42	92	
社家	・ ・ ・	・ ・ ・	574	※男女内訳不明
② [在・町・浜等身分者]	(計 18,384)	(計 16,153)	(計 34,537)	
諸在	16,723	14,735	31,458	
浦浜	809	675	1,484	
野町	852	743	1,595	
③ [その他身分者]	(計 ・ ・ ・)	(計 ・ ・ ・)	(計 4,006)	
郷士下人并足軽・中宿 ・諸座付・寺社門前	・ ・ ・	・ ・ ・	4,006	※男女内訳不明
b. 私領1カ郷			☆ 18,991人	☆←実際の集計値は「薩摩藩要録」より100人少ない18,891人。「政要録」の数値を用いる
① [士身分階層者]	(計 5,3・ ・ ・)	(計 4,6・ ・ ・)	(計 9,991)	
家来人跡	2,348		2,348	
家来人跡外	2,956		2,956	
家来妻娘		4,636	4,636	
寺社家	・ ・	・ ・	21	※男女内訳不明
出家	30		30	
② [在・町・浜等身分者]	(計 3,023)	(計 3,151)	(計 6,174)	
百姓	2,243	2,533	4,776	
野町	780	618	1,398	
③ [その他身分者]	(計 ・ ・ ・)	(計 ・ ・ ・)	(計 2,726)	
家中并足軽・寺社門前 未々	・ ・ ・	・ ・ ・	2,726	※男女内訳不明

B. 一般集計除外分

穢多・慶賀	・ ・ ・	・ ・ ・	944 ※男女内訳不明	諸郷 672 私領 272
-------	-------	-------	----------------	------------------

C. 実際の日向国総人口

総人口(含、穢多・慶賀)	・ ・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ ・ , ・ ・ ・	76,598 ※男女内訳不明	一般集計分 75,654 集計除外分 944
--------------	---------------	---------------	-------------------	---------------------------

注1. 本表の1～3には領内常住人口のみを掲げた。したがって江戸定府(男女615人)や京都(男女40人)・大坂(男女91人)居付の鹿児島藩士及びその妻子や座付士・下人など747人は本表には計上していない。

2. 「・ ・ ・」は男女人口の内訳不明を示す。

4. 道之島の身分階層別・男女別人口（一部集計のみ）

A. 島別

地 域	男子(人)	女子(人)	合計(人)	備 考
道之島人口総計	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	77,667	
a. 大島	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	36,375人	
① [士身分階層者] 郷士格・同妻娘	109	72	181	
② [在・町・浜等身分者] 諸在	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	35,874	
③ [その他] 遠島者	・ ・ ・	・ ・ ・	320	
b. 喜界島	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	9,329人	
① [士身分階層者] 郷士格	4		4	
② [在・町・浜等身分者] 諸在	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	9,223	
③ [その他] 遠島者	・ ・	・ ・	102	
c. 道之島	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	18,338人	
① [士身分階層者] 郷士格	7		7	
② [在・町・浜等身分者] 諸在	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	18,147	
③ [その他] イ.遠島者 ロ.遠島者赦免居附	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	171 13	
d. 沖永良部島并与論島	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	13,625人	
① [士身分階層者] 郷士格	0	0	0	
② [在・町・浜等身分者] 諸在	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	13,570	
③ [その他] イ.遠島者 ロ.遠島者赦免居附 出家	41 ・ 1	0 ・ 0	41 13 1	

5. 琉球の身分階層別・男女別人口

A. 一般集計分

地 域	男子(人)	女子(人)	合計(人)	備 考
琉球人口	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	140,549	
① [士身分階層者] 接司親方・士 同士妻娘 社家 寺院	・ ・ ・ ・ ・ (28,879) () (89)	・ ・ ・ ・ ・ (21,821) () ()	50,799 (28,879) (21,821) (10) (89)	
② [在・町・浜等身分者]	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	75,418	
③ [その他身分者] 家来其外末々	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	14,332	

B. 一般集計除外分

行脚	・	・	16	
----	---	---	----	--

C. 実際の琉球国総人口

琉球総人口(含、行脚)	・ ・ ・ ・ ・人	・ ・ ・ ・ ・人	140,565人	一般集計分 140,549 集計除外分 16
-------------	------------	------------	----------	---------------------------

[出典：鹿児島大学附属図書館（玉里文庫）所蔵「（文政十一年改編）薩藩政要録 四」]

注1. 本表4～5の「・ ・ ・」は男女人口の内訳不明を示す。

【第13表】（文政9年（1826））鹿児島藩三カ国の身分階層別の
国・地域別人口

	合 計 人 口 (比率 %)	備 考
A. 武士及び準士身分階層者の人口 (①人躰士・同外士・妻娘、②諸士家 来・足軽・諸座付・寺社門前)	242,896人 (37.3%)	※人躰士総数 36,670人 ① ↓ ② ↓
[薩摩国] a, 鹿児島	52,874 (8.1%)	17,100 + 35,774
b, 38カ郷	66,846 (10.3%)	58,123 + 8,723
c, 13カ私領	29,133 (4.5%)	23,421 + 5,712
[大隅国] d, 35カ郷	37,891 (5.8%)	33,043 + 4,848
f, 7カ私領	21,309 (3.3%)	14,183 + 7,126
[日向国] h, 19カ郷	22,126 (3.4%)	18,120 + 4,006
i, 1カ私領	12,717 (2.0%)	9,991 + 2,726
		[73,981] + [68,915] (26.7%) (10.6%)
B. 被支配の一般庶民階層者の人口 (③在郷・町・浜・寺社、④慶賀・ 穢多)	408,306人 (62.7%)	③ ↓ ④ ↓
[薩摩国] a, 鹿児島	19,581 (3.0%)	19,476 + 105
b, 38カ郷	196,899 (30.2%)	194,668 + 2,231
c, 13カ私領	39,441 (6.1%)	38,867 + 574
[大隅国] d, 35カ郷	92,100 (14.2%)	91,103 + 997
f, 7カ私領	18,530 (2.8%)	18,357 + 173
h, 集計洩れ不明分	100	100 +
[日向国] i, 19カ郷	35,209 (5.4%)	34,537 + 672
j, 1カ私領	6,446 (1.0%)	6,174 + 272
		[403,282] + [5,024] (61.9%) (0.8%)
合 計 人 口 (薩隅日三カ国分)	651,202人 (100.0%)	

[出典；鹿児島大学附属図書館所蔵「薩藩政要録」（玉里文庫）による。]

- 注1. 本表は文政9年段階の鹿児島藩の薩摩・大隅・日向国三カ国の人口を大きく
A=武士及び準士身分階層者（①人躰士・同外士・妻娘、②諸士家来・足軽・
諸座付・寺社門前）とB=被支配の一般庶民階層者（③在郷・町・浜・寺社、
④慶賀・穢多）に分けて、それぞれ国別・公私領別に人口内訳を示している。
2. 大隅国集計洩れ不明分とは『薩藩政要録』の本文集計欄に実際の集計値より
100人多く記載されている所属不明分の数値である。

【第14表】（文政9年（1826））鹿児島藩の国・地域別人口

国・地域名	人 口	参 考
薩 摩 国	404,774人 <46.6%> ※一般集計分 401,864・除外分2,910	651,202人 <74.9%> ※一般集計分 646,178 除外人口分 5,024
大 隅 国	169,830人 <19.5%> ※一般集計分 168,660・除外分1,170	
日向国諸県郡	76,598人 <8.8%> ※一般集計分 75,654・除外分944	
道 之 島	77,667人 <8.9%> ※一般集計分 77,667・除外分 0	218,232人 <25.1%> ※一般集計分 218,216 除外人口分 16
琉 球 国	140,565人 <16.2%> ※一般集計分 140,549・除外分 16	
総 人 口	869,434人 <100.0%> ※一般集計分 865,142・除外分5,040	

〔出典：鹿児島大学附属図書館（玉里文庫）所蔵「文政十一年改編」薩藩政要録 四〕

- 注1. 本表には領内在住人口のみを掲げた。したがって江戸定府（男女615人）や京都（男女40人）・大坂（男女92人）居付の鹿児島藩士及びその妻子や座付士・下人など747人は本表には計上していない。
2. 本表の人口比率は琉球を含めた鹿児島藩人口に対する各国・地域の比率を示している。

八、幕末、十九世紀半ばの薩摩藩人口

「要用集」は「薩藩政要録」の別称である。前述した「薩藩政要録」の改編史料集が安政元年頃に藩によって編纂されて今に残る。この安政本「薩藩政要録」のことを、今日一般には「要用集」（祁答院町榊山家・鹿児島県立図書館所蔵）と呼んでいる。

文政本「薩藩政要録」と比べた場合、各巻収載の記事項目数は全く同じで計八九項目であるが、内容は、文政から安政期に至る四半世紀の年代の推移にともなう薩摩藩社会の変動を反映して、特に数量及び人名などをともなう記事を中心に、多寡はあるが、五六項目の記事内容に変更箇所が認められる。

諸種の統計データは嘉永四～五年のものを中心前後のものとして推定されるものが多い。「要用集 四」には、嘉永五年（一八五二）の薩摩藩宗門手札改の人口調査で得られた各種集計データが、文政本「薩藩政要録」と同じく「三九 宗門手札御改人数総之事」として収められていて、貴重なデータと史料情報を豊富に提供してくれる。

この嘉永五年の人口史料によれば、我が国の幕末の政治的混迷が始まる直前段階の薩摩藩人口を、一般集計除外分人口を含めて、薩摩国三万三千五二七人・大隅国一五万七千一一人・日向諸県郡七万四千七二七人・道之島八万五千一五五人・琉球国一三万二千六七八人、そして薩隅日三ヶ国の合計人口六二万二千三六五人、これに道之島と琉球国の合計分二二万七千八〇三人を加えた薩摩藩総人口を八四万三千一六八人としている（第一五表～第一六表）。

【第15表】（嘉永5年（1852））鹿児島藩の国・地域別人口

国・地域名	人 口	参 考
薩 摩 国	393,527人 <46.7%> ※一般集計分 390,474・除外分3,053	625,365人 <74.2%> ※一般集計分 620,026 除外人口分 5,339
大 隅 国	157,111人 <18.6%> ※一般集計分 155,817・除外分1,294	
日向国諸県郡	74,727人 <8.9%> ※一般集計分 73,735・除外分992	
道 之 島	85,125人 <10.1%> ※一般集計分 85,125・除外分 0	217,803人 <25.8%> ※一般集計分 217,787 除外人口分 16
琉 球 国	132,678人 <15.7%> ※一般集計分 132,813・除外分 16	
総 人 口	843,168人 <100.0%> ※一般集計分 837,813・除外分5,355	

〔出典：東京大学史料編纂所蔵（島津家文書）「（安政元年頃改編）要用集 四」〕

- 注1. 本表には領内在住人口のみを掲げた。したがって江戸定府（男女594人）や京都（男女37人）・伏見（男女8人）大坂（男女86人）・長崎（男女13人）居付の鹿児島藩士及びその妻子や座付士・下人など738人は本表には計上していない。
2. 「要用集」には、上表に掲げた一般集計分人口837,813人に上記注1で指摘した藩外在住の鹿児島藩人738人を合わせた838,551人を鹿児島藩総人口として史料本文冒頭に掲げている。
3. 本表の人口比率は琉球を含めた鹿児島藩総人口に対する各国・地域の比率を示している。

九、藩政終末期、明治維新期の人口史料と薩摩藩人口

1. 『薩隅日地理纂考』について

慶応三年（一八六七）暮、薩摩藩が主導した維新変革の政治運動が成功して王政復古が成り、やがて明治の新時代が到来して明治四年（一八七一）の廢藩置県に至る激動の政局が続いた維新直後の藩政終末期、薩摩藩人口がいかなる状態にあり、どのような動向を示していたのか、極めて重要な問題であるといえるが、これまでほとんど研究者の関心にならず、全くといっていいほど未解明のまま今日に至っている。

この時期の薩摩藩の人口事情を全藩的に細かく知ることのできる史料に『薩隅日地理纂考』（鹿児島県教育会編）がある。同書は明治初期、廢藩置県当時の薩摩・大隅国・日向国諸県郡の地誌である。

鹿児島藩知事島津忠義の命で、初め八田知紀・高木秀明・樺山資雄らが編纂に携わったが、責任者の八田・高木が新政府に登用されたあと、樺山を主任として事業が続けられ、明治四年頃にはあらかじめ成ったとされるが、その後加筆訂正されて、明治七、八年頃までには完成したものと推測されている。

記述内容は、各郷ごとの沿革にはじまり、県庁からの方位と距離・郷域と周囲・村落・石高・人口・戸数・物産などの記事、及び村ごとの主要神社はじめ代表的な自然（山岳・河川・漠布・池・津崎・島など）、港浦、城跡・温泉など名所旧跡、それに特記事項など詳細にわたる。

本文中の人口ほか各種の統計数値は明治維新前後からその直後の藩政終末期のものと推定される。ただし、江戸時代以来の藩制下の薩摩藩領域に対する編纂者の理解や扱いから琉球国所属の大島郡は本書に収めら

れておらず、また激しい廃仏毀釈のさ中にあつた当時の社会情勢や時勢を反映して仏教寺院関係の記事も欠いている。

2. 藩政終末期(明治維新时期)の薩摩藩人口

維新直後の明治二年(一八六九)の薩摩藩の藩政改革や軍制改革の一環として実施された私領の藩への返還等にもなつて、江戸期以来の薩摩藩の郷村秩序は抜本的な再編成を受け大きく変わった。

前述したように、『薩隅日地理纂考』は明治二年の変革による新編成直後の鹿児島城下ほか薩摩国四六郷・二島嶼地域(三島・七島)、及び大隅国三八郷・二島(種子島・屋久島)、日向国諸県郡一九郷の当時の郷村状況について、多種多彩で多くの貴重なデータや史料情報を提供してくれる。

人口に関しては、まことにありがたいことに、各郷及び島嶼単位で身分別に、それも男女別に分けて集計結果を収めてくれている。しかし、薩摩国東郷と大隅国種子島の分については人口記載を欠き、全てが都合よく揃っているというわけではない。また身分別の合計集計値や男女別の合計集計値、及び全体集計値として記載されている数値と、それらの小内訳として記されている数値を實際に集計した合計値とを比べ照合してみると、両者の数値には一致しないものがままあるという史料上の問題を内包してはいるが、いずれも両郷には近接した時期にある程度欠落分を補える人口史料が残っているので、それらは致命的で大きな支障をきたす性格のものではない。

第一七表(後掲)は、国別に郷ごとの男女別人口を示している。続いて掲げた第一八表(後掲)は、国別に郷ごとの身分別人口を示している。

表中、記載欠落の薩摩国東郷については、参考までに明治一〇年代前半(一八八一頃)のデータを収める『鹿児島県地誌』からの集計数値を掲げた(注、郷ごとの全体集計記事がないので所属村落記載の数値を集計した)。

『鹿児島県地誌』に掲げる明治一〇年代前半の東郷総人口

【総人口】 七、五九五人

【男子】

士族男 一、三三四人 三、八三二人

平民男 二、四九八人

【女子】

士族女 一、二九九人 三、七七三人

平民女 二、四七四人

また、同じく記載欠落の大隅国種子島の総人口については、参考までに西村天因の『南島偉功伝』に収める慶応四年||明治元年(一八六八)段階の数値を掲げた。

『南島偉功伝』に掲げる幕末期以降の種子島人口

文化元年(一八〇四) 一四、二〇九人

慶応四年||明治元年(一八六八) 一八、〇〇〇人余

明治一五年(一八八二) 二〇、一一七人

明治三〇年(一八九七) 二四、二二六人

記載欠落の東郷と種子島を除く、確実に判明する薩摩国と大隅国の人

口（實際集計値）は、それぞれ四五万六千三百余人（薩摩国）と一九万一千百余人（大隅国）である。

さて『薩隅日地理纂考』が成立した維新直後の明治四年頃のこの両地域の人口は、それぞれどれくらいだったのだろうか。そしてこれらの地域の人口を含めた薩摩国と大隅国の総人口はどれくらいあったのだろうか。いくつかの史料を用いて推定を試みてみたい。

まず東郷と薩摩国人口についてみる。薩摩国人口は『要用集』によると嘉永五年（一八五二）三九万三千五百余人、『薩隅日地理纂考』によると明治四年（一八七二）推定四六万三千人強（注、算定の便宜上『鹿児島県地誌』の東郷人口七千五百余人を考慮して加算）であって、両期二〇年間における薩摩国の人口増加は推定七万人前後、この間に同国ではおおよそ一八%前後の人口増加があったことを推定し得る。

明治四年以降の一〇年間にもこれとほぼ同じ年増加率で東郷人口が増えたと仮定して、『鹿児島県地誌』に載せる明治一〇年代前半（一八八一年頃）の東郷人口七千五百九五人から遡って明治四年段階の人口を算出すると、東郷人口として七千人前後の数量が得られる。

また当該期の東郷の男子と女子人口が明治一〇年代前半とほぼ同じ比率で存在していたと仮定して各人口を算出すると、ともに三千五百人前後の数量が得られる。

これらの数量をベースにして藩政終末期（明治四年頃）の薩摩国人口を算出すると、総人口四六万三千〜四千人（男子二三万四千〜五千人・女子二二万八千〜九千人）の推定人口が得られることになる。

次に同期の種子島と大隅国の人口について推定を試みてみたい。

種子島の人口は、『要用集』によれば嘉永五年（一八五二）一万三千

九三二人、『南島偉功伝』によれば明治三〇年（一八九七）二万四千二二六人、この約四五五年間の種子島人口の増加分（一万二九四人）は嘉永期から約七四%の増加、年率にすると一・六%強の増加率である。これとほぼ同じ増加率で明治初期にも種子島人口が増えていったと仮定した場合、明治四年段階の種子島人口として一万八千七百人前後の数量が得られる。また嘉永期の種子島人口には性別不明人口四千一七九人（約三〇%）があるのであるが、この人口分が仮に男女均等に存在していたと想定して配分した場合、同期の種子島の男女比率は男子五四・四%・女子四五・六%となる。さらに明治四年段階の種子島人口がこの比率で存在していたと仮定した場合、当該期の人口として男子約一万二百人・女子約八千五百人の数値を得ることができる。これらの数値を加算すると、藩政終末期（明治四年頃）の大隅国人口として、総人口二〇万九千〜二万人前後（男子一万人前後・女子九万九千〜一〇万人前後）が推定人口が得られることになる。

以上の考察によって得られた薩摩国分四六万三千〜四千人と大隅国分二〇万九千〜二万人の推定人口に、全人口判明分の日向国約七万九千人（男子四万一千三百余人・女子三万七千七百余人）を加えた藩政終末期（明治維新直後）の薩隅日三ヶ国総人口は、おおよそ七五万人台前半（男子三八万五千人前後・女子三六万人台後半）に推定できるのであるまいか。

【第19表】鹿児島藩の国・島嶼別人口推移

	薩摩国(人)	大隅国(人)	日向国諸県郡(人)	薩隅日合計(人)	道之島(人)	琉球国(人)	総計
寛永13年(1636)	約16~17万カ	約11~12万カ	63,723	約33~34万位カ			
寛文年間(1660~70頃)	178,101	115,459	60,767	354,327	31,377	110,211	495,915
貞享元年(1684)	183,376	117,583	54,428	355,387			
宝永3年(1706)				461,961	49,472	155,108	666,541
享保内検期(1722~27)				56万位カ	6万2,3千カ	13~14万位カ	75~76万位カ
元文2年(1737)							817,635
延享2年(1745)							843,808
宝暦3年(1753)							872,083
宝暦11年(1761)							879,539
明和9年(1772)	内 ※1,051	内 ※1,071	内 ※1,106	内 ※3,228	74,899	174,222 内 ※25	887,222 内 ※3,253
天明6・7年(1786~87)							842,406
寛政6年(1794頃)カ				623,627			
寛政12年(1800)	373,046 内 ※2,270	177,312 内 ※995	76,971 内 ※693	627,329 内 ※3,958	74,593	155,650 内 ※13	857,562 内 ※3,971
文政9年(1826)	404,774 内 ※2,910	169,830 内 ※1,170	76,598 内 ※944	651,202 内 ※5,024	77,667	140,565 内 ※16	869,434 内 ※5,040
嘉永5年(1852)	393,527 内 ※3,053	157,111 内 ※1,294	74,727 内 ※992	625,365 内 ※5,339	85,125	132,678 内 ※16	843,168 内 ※5,355
明治4年(1871)	46万3,4千カ	20万9千~ 21万カ	約7万9千カ	75人台カ			

- 注1. 上表の薩摩国人口には鹿児島城下及びその近在の人口も含む。
2. 表中の「内※」の人口は、薩摩藩宗門手札改めの集計作業において一般統計から除外して把握された別に集計分の慶賀・穢多・行脚等の人口を示す。各人口にはこれを含めた合計数値で示してある。
3. 「内※」の付していない人口は一般統計人口のみ計上した数値である。
4. 本表作成に用いた史料並びに出典は次のとおりである。
- 東京大学史料編纂所蔵「続編島津氏正統系図十八代家久 七十七」(『鹿児島県史料 旧記雑録後編後』)
 - 鹿児島県曾於郡志布志阿多家所蔵「島津家古記并家老名等阿多家諸書留」
 - 東京大学史料編纂所蔵「(貞享元年)薩摩幕府諸国巡見使応答 全」
 - 都城島津家所蔵「列朝制度」(『藩法集 8 鹿児島藩 上』)
 - 鹿児島県立図書館所蔵「大御支配次第帳」(『薩摩半島の総合的研究』)
 - 『鹿児島県史 第二巻』
 - 「薩藩政要録 四」(『鹿児島県史料集 1』)
 - 「要用集 四」(『鹿児島県史料集 29』)
 - 『薩隅日地理纂考』

十、結び—薩摩藩の人口動態に関して—

第一九表は、本稿での考察と史料確認を通して得られた薩摩藩の近世の各時代における人口（含む、推定人口）を、国ないしは島嶼別に示したものである。これらの数値をベースにした細かな考察は後日に譲ることにして、本稿成立までの資料作成や考証の過程で、薩摩藩の人口動態に関して、筆者が気づいたいくつかの特徴的なことを掲げ、あわせて若干の問題提起をすることをもって結びとしたい。

先ず指摘できることは、一般に江戸時代の人口については停滞的イメージをもって語られることが多いのであるが、薩摩藩の場合、そのような指摘に合致するのは一八世紀前期後半から一九世紀半ばに至る近世中後期の百年余のことであつて、近世全体を通じてみた場合はとにかく増加が著しい。例えば、薩摩藩の本領地にあたる薩隅日三ヶ地域に限つてみると、十七世紀前期の早い段階（寛永年間）に三三、四万人台と推定される人口が藩政終末期（明治維新直後）の十九世紀後期前半には約七十五万人へと二倍以上の増加をみせている。同じことは道之島と琉球を加えた総人口についてもいえる。

十七世紀半ば（寛文年間）に四九万五千余人だった総人口が、その後約百年間増加の一途をたどつて、ピーク時の十八世紀半ば（明和九年）には八八万七千余人へと一・八倍もの増加をみせている。このピーク時と比べると幕末には若干落ち込んではいないが、それでも十九世紀半ばの嘉永年間には八四万三千余人で寛文期の一・七倍を示している。

次には、薩摩藩の人口増加が決して一定の平均的な増加現象によつてもたらされたものではなく、その大半は十八世紀半ばから十九世紀半ば

の人口停滞状態にあつた約一世紀余の期間の前後に存在した二つの人口急増期にもたらされているということである。

本表によれば、十八世紀半ばの延享二年（一七四五）段階に八四万三千余人あつた薩摩藩総人口は、その後漸増してピーク時の明和年間には八八万人台にまで達するものの、直後には急激に減少して延享期とはほぼ同じ人口に戻り、以後は増減が繰り返される人口停滞状態に入つて、幕末の嘉永年間には再び延享期と同じ水準に戻っている。したがつて延享期以降嘉永期に至る百年余は全体としてみれば、薩摩藩人口がほとんど増えることのなかつた人口停滞状態にあつたとみることが出来る。

これとは対照的にそれ以前の時期、すなわち寛文期を少し過ぎた十七世紀後期以降十八世紀前期の元文・延享期頃までの五、六十年間の薩摩藩では、道之島と琉球国も含めて爆発的な勢いで人口増加がおこつたことがわかる。また、薩隅日三ヶ地域に限つてみれば、その後の人口停滞期の一世紀余が過ぎた幕末（嘉永期以降）から明治期に至る十九世紀後半期に、同地域では再び爆発的な人口増加現象がおこつたことが理解される。史料を持ち合わせていないので断定的なことはいえないが、同じ時期の道之島と琉球国を含めた藩全体の総人口でも、おそらくは薩隅日三ヶ地域と連動する形で急激な勢いで増加しているのではあるまいか。

第三に、地域別の人口動態をみた場合、藩政時代を通じて薩摩国・大隅国・日向国諸県郡・道之島・琉球国のそれぞれの国や地域で人口はいずれも増加しているのであるが、その増加のあり方には格差が極めて著しいということである。例えば、全地域の確かな人口が把握できる十七世紀半ばの寛文年間とそれから約二百年が経つた嘉永五年の人口を比べると、薩摩国が一七万八千余人から三九万三千余人へと二万五千余人

の増加（この間一二〇%余の増）、大隅国が一萬五千余人から一五萬七千余人へと四萬一千余人の増加（三三%余の増）、日向国諸県郡が六万余人から七萬四千余人へと約一萬四千人の増加（約三三%の増）、道之島が三萬一千余人から八萬五千余人へと五萬三千余人の増加（約一七〇%の増）、琉球国が一萬余人から二萬二千人へと二萬二千余人の増加（約二〇%の増）となっている。

五地域のうちで薩摩国と道之島の両地域の人口増加が特に著しい。薩摩国が二・二倍、道之島が二・七倍の増加を示しているが、とりわけ道之島は近世前期の三倍増に迫る勢いで増えていることが注目される。

この両地域に対して大隅国・日向国諸県郡・琉球国は低い人口増加にとどまっている。本表によれば、このうち大隅国と琉球国は十八世紀の後半期まではともに一・五倍以上（寛文期に比して、寛政十二年の大隅国人口約一五四%増）へと、かなりの水準にまで増えたものの、その後減少から停滞状況に陥って、幕末には前述したような人口にまで落ち込んだことが理解される。

残る人口増加の低い日向国諸県地域は、大隅・琉球の両国の人口動態とはまた様相を異にし、近世前期以降明治維新期に至る期間、極めてわずかず増えていることが知られるが、全体としてみると六、七万人台にほとんど停滞的に推移しているといえる。先に筆者は享保内検期の薩隅日三ヶ地域の人口を約五六万人ぐらいに推定できる史料があることを明らかにした。この推定がほぼ当を得、あわせて当該期の三つの地域のそれぞれの人口が約四十年前の貞享元年とほぼ同じ比率（薩摩国約五二%・大隅国約三三%・日向国諸県郡・約一五%）で分布していたと仮定した場合、内検期の人口として薩摩国二九万人台・大隅国一八万人台

半ば・日向国諸県地域八万人台半ばの数値を得ることができる。当時の人口分布の現実がこの推量とさして隔たることがなかったとするならば、薩摩藩領の各地域では、少なくとも十八世紀前半の享保内検期前後の頃までは、それぞれ等しく人口が爆発的な勢いで増えていったことが推測される。そして、その後大隅国と日向国諸県の両地域では人口減少に転じ（十七世紀中・後期のある時期と推定されるが、目下のところ時期は特定できない）、やがて両地域のうち日向国諸県地域では七万人台での人口停滞状況に陥り、大隅国は引き続き減少傾向の一途をたどって幕末に至ったということもあわせて推測できることになる。

以上、第一九表をみて、薩摩藩の人口動態とその特徴について大まかにまとめてみたが、さて、筆者が示したこの人口推移表や本節で行った推測のとおり、近世の薩摩藩人口がほぼ推移しているものとするならば、十七世紀後期から十八世紀前半の元文・延享期に至る時期と幕末から明治期に至る十九世紀後半期の薩摩藩に爆発的な人口増加をもたらした要因は何だったのだろうか。

また、その後の人口動態において、薩摩国と道之島という大きく増加の一途をたどった地域がある一方で、十八世紀の中・後期における急激な人口減少のあと停滞状態に陥ったことが推測される日向国諸県地域、さらに同時代のある時期から人口減少の一途をたどったことが推測される大隅国と琉球国という、極めて顕著な地域差はそれぞれどのような要因に基づいて現象しているのだろうか。

ところで、第二表の1、3と第三表、及び第八表・第十七表の1、3によって薩摩藩の薩隅日三ヶ地域総人口に占める男女比率をみると、近世前期の寛永十三年（一六三六）から宝永三年（一七〇六）の近世中期

に至る時期にはともに男子五八・女子四二%だったものが、藩政終末期の明治四年（一八七二）頃には男子約五一%・女子四九%となっている。近世の一定地域の全体人口に占める男女人口をみた場合、一般にはいずれの地域にあっても男子人口が女子人口よりも多く、人口比率でみた場合、近世でも早い時期ほど男子の比率が女子よりも高く、両者の格差が大きく、近代に近づくほどその格差は小さくなって相半ばするような状態に近づいていくことが知られているが（関山直太郎『近世日本の人口構造』、速水融『歴史人口学の世界』）、近世前期の薩摩藩の場合、男女格差が異常に大きく、女子に対する男子の人口比率が圧倒的に高い。この数値が近世前期の薩摩藩本領地の社会の現実を正しく反映しているものとしたら、このような男子人口比率が圧倒的に高い男性優位の薩摩藩社会とは、どのような構造や体質をもつ社会だったのだろうか。

また第九表より、十七世紀初頭の宝永三年（一七〇六）段階において、薩隅日の本領三ヶ地域における薩摩藩社会で圧倒的に男子人口の多い男子優勢社会が存在している一方で、道之島と琉球国の島嶼地域は様相が異なり、薩隅日の藩政終末期段階にみられる男女格差が小さい両者近接する社会となっていることがわかる。人口的にみれば、両地域は同時代にあつて明らかに異質な社会といえる。何がこのような両地域の異質性をもたらししているのであるか。

先に提起した問題ともども今後の研究課題であろう。

【後記】

本稿の執筆にあたっては、黎明館史料編さん委員原口泉氏（鹿児島大学）より貴重な史料の提供を受けた。記して深謝の意を表します。

【第16表】（嘉永5年（1852））鹿児島藩の国ごとの
身分階層別・男女別人口（在国人口）

1. 薩摩国の身分階層別・男女別人口
A. 一般集計分

地 域	男子(人)	女子(人)	合計(人)	備 考
薩摩国人口総計	・ ・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ ・ , ・ ・ ・	390,474	※男女内訳不明
a. 鹿児島人口			76,912人	
① [土身分階層者]	(計 9,751)	(計 8,723)	(計 18,474)	
土人躰	4,487		4,487	
人躰外土	4,972		4,972	
土妻子		8,712	8,712	
福昌寺役人	6		6	
同妻子		9	9	
妙音寺地神盲僧・同家内	1	2	3	
出家	285		285	
② [在・町・浜等身分者]	(計 9,606)	(計 8,910)	(計 18,516)	
鹿児島近在	7,497	6,784	14,281	
鹿児島城下三町	2,001	2,039	4,040	
横井野町	61	68	129	
荒田浜	47	19	66	
③ [その他身分者]	(計 ・ ・ , ・ ・ ・)	(計 ・ ・ , ・ ・ ・)	(計 39,922)	
諸士家来并足軽・諸	・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ , ・ ・ ・	39,922	
座付・寺社門前				※男女内訳不明
b. 直轄領38カ郷（七島・三島を含む）			247,804人	
① [土身分階層者]	(計 30,369)	(計 27,147)	(計 57,516)	
郷土人躰	10,950		10,950	
人躰外郷土	19,152		19,152	
郷土妻娘		27,147	27,147	
出家	267		267	
② [在・町・浜等身分者]	(計 94,133)	(計 88,182)	(計 182,315)	
諸在	75,875	70,699	146,574	
苗代川	595	556	1,151	
浦浜	16,093	15,493	31,586	
野町	1,570	1,434	3,004	
③ [その他身分者]	(計 ・ ・ , ・ ・ ・)	(計 ・ ・ , ・ ・ ・)	(計 7,973)	
郷土下人并足軽・中宿・	・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ , ・ ・ ・	7,940	
諸座付・寺社門前			33	
赦免居付・遠島者	33			※男女内訳不明
c. 私領13カ郷			☆ 65,758人	☆←実際の集計値は「要用集」の数値より400人少ない65,358人だが「要用集」の数値を用いる
① [土身分階層者]	(計 12,4・)	(計 11,5・)	(計 24,097)	※男女内訳不明
家来人躰	4,427		4,427	
家来人躰外	7,931		7,931	
家来妻娘		11,531	11,531	
寺社家	・	・	132	
出家	76		76	
② [在・町・浜等身分者]	(計 18,705)	(計 16,779)	(計 35,484)	
百姓	15,642	14,062	29,704	
浦浜	2,787	2,429	5,216	
野町	276	288	564	
③ [その他身分者]	(計 ・ ・ , ・ ・ ・)	(計 ・ ・ , ・ ・ ・)	(計 5,777)	
家中并足軽・私領居住	・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ , ・ ・ ・	5,777	
寺社門前末々				※男女内訳不明

B. 一般集計除外分

穢多・慶賀	・ ・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ ・ , ・ ・ ・	3,053	鹿児島 86 ※男女内訳不明 諸郷 2,297・私領 670
-------	---------------	---------------	-------	--------------------------------------

C. 実際の薩摩国総人口分

総人口（含、穢多・慶賀）	・ ・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ ・ , ・ ・ ・	393,527	一般集計分 390,474 集計除外分 3,053
--------------	---------------	---------------	---------	------------------------------

2. 大隅国の身分階層別・男女別人口

A. 一般集計分

地 域	男 子 (人)	女 子 (人)	合 計 (人)	備 考
大 隅 国 人 口 総 計	・ ・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ ・ , ・ ・ ・	1 5 5 , 8 1 7	※男女内訳不明
b. 直轄領35カ郷（屋久島・口永良部島を含む）			☆ 118,236人	☆←実際の集計値は「要用集」の数値より2人少ない118,234人だが「要用集」の数値を用いる
① [土身分階層者]	(計 17,492)	(計 13,913)	(計 31,405)	
郷土人躰	7,687		7,687	
人躰外郷土	9,636		9,636	
郷土妻娘		13,913	13,913	
出家	169		169	
② [在・町・浜等身分者]	(計 43,407)	(計 38,869)	(計 82,276)	
諸在	37,728	33,817	71,545	
浦浜	3,384	2,975	6,359	
野町	1,767	1,573	3,340	
笠野原	427	411	838	
半浦	101	93	194	
③ [その他身分者]	(計 ・ , ・ ・ ・)	(計 ・ , ・ ・ ・)	(計 4,553)	
郷土下人并足軽・中宿	・ , ・ ・ ・	・ , ・ ・ ・	4,486	※男女内訳不明
・ 諸座付・寺社門前				
公義流入・遠島者	67	公義流入35・遠島者32 ※男女内訳不明
c. 私領7カ郷			37,581人	
① [土身分階層者]	(計 7,7・)	(計 6,4・)	(計 14,113)	※男女内訳不明
家来人躰	3,422		3,422	
家来人躰外	4,189		4,189	
家来妻娘		6,385	6,385	
社家	42	※男女内訳不明
出家	75		75	
② [在・町・浜等身分者]	(計 9,457)	(計 7,194)	(計 16,651)	
百姓	6,336	4,825	11,161	
浦浜	2,717	2,089	4,806	
野町	85	68	153	
塩屋	319	212	531	
③ [その他身分者]	(計 ・ , ・ ・ ・)	(計 ・ , ・ ・ ・)	(計 6,817)	
家中并足軽・寺社門前	・ , ・ ・ ・	・ , ・ ・ ・	6,751	※男女内訳不明
末々				
公義流入	66		66	

B. 一般集計除外分

磯多・慶賀	・ ・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ ・ , ・ ・ ・	1 , 2 9 4 ※男女内訳不明	諸郷 1,098 私領 196
-------	---------------	---------------	----------------------	--------------------

C. 実際の大隅国総人口

総人口（含、磯多・慶賀）	・ ・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ ・ , ・ ・ ・	1 5 7 , 1 1 1 ※男女内訳不明	一般集計分 155,817 集計除外分 1,294
--------------	---------------	---------------	--------------------------	------------------------------

3. 日向国諸県郡の身分階層別・男女別人口

A. 一般集計分

地 域	男 子 (人)	女 子 (人)	合 計 (人)	備 考
日向国 (諸県郡)	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	73,735	※男女内訳不明
a. 直轄領19カ郷			※ 54,259人	※全体集計、社家人口500位の記録を欠落させるか？
① [士身分階層者]	(計 9,・・・)	(計 7,・・・)	(計 16,614)	
郷士人跡	4,197		4,197	
人跡外郷士	4,889	7,340	4,889	
郷士妻娘			7,340	
出家	84		84	
飯隈山	22		22	
人跡外飯隈山	30		30	
飯隈山妻娘		52	52	
※ (社家)	(記載なし)	(記載なし)	(記載なし)	
② [在・町・浜等身分者]	(計 17,188)	(計 15,342)	(計 32,530)	
諸在	15,601	13,886	29,487	
浦浜	701	659	1,360	
野町	886	797	1,683	
③ [その他身分者]	(計 ・・・)	(計 ・・・)	(計 5,115)	※男女内訳不明
郷士下人并足軽・中宿・諸座付・寺社門前	・・・	・・・	5,115	
b. 私領1カ郷			(計 9,771)	※男女内訳不明
① [士身分階層者]	(計 5,1・・・)	(計 4,5・・・)	(計 9,771)	
家来人跡	2,437		2,437	
家来人跡外	2,718	4,572	2,718	
家来妻娘			4,572	
社家	15	
出家	29		29	
② [在・町・浜等身分者]	(計 2,923)	(計 3,139)	(計 6,062)	
百姓	2,133	2,369	4,502	
野町	790	770	1,560	
③ [その他身分者]	(計 ・・・)	(計 ・・・)	(計 3,643)	※男女内訳不明
家中并足軽・寺社門前末々	・・・	・・・	3,643	

B. 一般集計除外分

穢多・慶賀	・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・	992	諸郷 706 私領 289
			※男女内訳不明	

C. 実際の日向国諸県郡総人口

総人口 (含、穢多・慶賀)	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	74,727	一般集計分 73,735 集計除外分 992
			※男女内訳不明	

[出典；東京大学史料編纂所（島津家文書）所蔵「（安政元年頃改編）要用集 四」]

注1. 本表の1～3には領内在住のみを掲げた。したがって江戸定府（男女594人）や京都（男女37人）・伏見（男女8人）・大坂（男女86人）・長崎（男女13人）居付の鹿児島藩士及び妻子や座付士・下人など738人は本表には計上していない。

2. 「・・・」は男女人口の内訳不明を示す。

4. 道之島の身分階層別・男女別人口

A. 一般集計分

地 域	男子(人)	女子(人)	男子(人)	備 考
道 之 島 総 人 口	・ ・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ ・ , ・ ・ ・	85,125人	※男女内訳不明
a. 大 島	・ ・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ ・ , ・ ・ ・	37,714人	
① [士身分階層者] 郷土格・同妻娘	525	429	1,017	
② [農民身分の者] 諸在	・ ・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ ・ , ・ ・ ・	36,399	
③ [その他身分者] 遠島者	・ ・ ・	・ ・ ・	298	
b. 喜界島	・ ・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ ・ , ・ ・ ・	10,852人	
① [士身分階層者] 郷土格・同妻娘	52	36	88	
② [農民身分の者] 諸在	・ ・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ ・ , ・ ・ ・	10,619	
③ [その他身分者] 遠島者	・ ・ ・	・ ・ ・	145	
c. 徳之島	・ ・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ ・ , ・ ・ ・	21,961人	
① [士身分階層者] 郷土格・同妻娘	193	135	328	
② [農民身分の者] 諸在	・ ・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ ・ , ・ ・ ・	21,429	
③ [その他身分者] 遠島者	・ ・	・ ・	204	
d. 沖永良部島并与論島	・ ・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ ・ , ・ ・ ・	14,598人	
① [士身分階層者] 郷土格・同妻娘	66	67	133	
② [農民身分の者] 諸在	・ ・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ ・ , ・ ・ ・	14,335	
③ [その他身分者] イ. 遠島者 ロ. 遠島者赦免居 附并島借人	124 .	. .	124 6	

5. 琉球の身分階層別・男女別人口

A. 一般集計分

地 域	男子(人)	女子(人)	合 計(人)	備 考
琉 球 国 人 口	・ ・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ ・ , ・ ・ ・	132,662人	
① [士身分階層者] 按司親方・士 同士妻娘 社家 寺院	(30,121) () (89)	(19,970) () ()	50,185人 (30,121) (19,970) (10) (84)	
② [農民身分の者]	・ ・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ ・ , ・ ・ ・	67,821	
③ [その他身分者] 家来其外未々	・ ・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ ・ , ・ ・ ・	14,656	

B. 一般集計除外分

行 脚	16		16	
-----	----	--	----	--

C. 実際の琉球総人口

琉球総人口(含、行脚)	・ ・ ・ , ・ ・ ・	・ ・ ・ , ・ ・ ・	132,678人	一般集計分 132,662 集計除外分 16
-------------	---------------	---------------	----------	---------------------------

[出典；東京大学史料編纂所(島津家文書)所蔵「(安政元年頃改編)要用集 四」]

注1. 本表4～5の「・ ・ ・」は男女人口の内訳不明を示す。

【第17表】鹿兒島藩の郷別・男女別人口 明治4年(1871)

1. 薩摩国

郷名	男子数 <比率>	女子数 <比率>	合計 <比率>	郷名	男子数 <比率>	女子数 <比率>	合計 <比率>
鹿兒島	43,589 <51.0%>	41,842 <49.0%>	85,435 ※実際の集計値は 85,431 (100.0%)	甌島	7,866 <52.0%>	7,261 <48.0%>	15,172 ※実際の集計値は 15,127 (100.0%)
吉田	1,926 <50.2%>	1,911 <49.8%>	3,837 <100.0%>	宮之城	4,385 <50.9%>	4,223 <49.1%>	8,608 <100.0%>
郡山	2,314 <51.1%>	2,213 <48.9%>	4,535 ※実際の集計値は 4,527 (100.0%)	黒木	467 <50.9%>	450 <49.1%>	917 <100.0%>
伊集院	9,199 <50.7%>	8,939 <49.3%>	18,138 <100.0%>	山崎	2,099 <52.9%>	1,866 <47.1%>	3,965 <100.0%>
永吉	2,266 <53.6%>	1,961 <46.4%>	4,227 <100.0%>	大村	1,691 <50.7%>	1,644 <49.3%>	3,331 ※実際の集計値は 3,335 (100.0%)
吉利	1,580 <51.5%>	1,487 <48.5%>	3,067 <100.0%>	蘭牟田	808 <52.6%>	729 <47.4%>	1,526 ※実際の集計値は 1,537 (100.0%)
串木野	8,111 <51.0%>	7,795 <49.0%>	15,906 <100.0%>	牛山 ※旧大口・ 山野・羽月 郷よりなる	4,596 <51.8%>	4,280 <48.2%>	8,880 ※実際の集計値は 8,876 (100.0%)
日置	3,494 <50.8%>	3,225 <48.0%>	6,719 <100.0%>	鶴田	1,691 <51.4%>	1,598 <48.6%>	3,289 <100.0%>
市来	8,362 <50.8%>	8,089 <49.2%>	16,421 ※実際の集計値は 16,451 (100.0%)	佐志	552 <46.1%>	646 <53.9%>	1,198 <100.0%>
入来	2,312 <50.9%>	2,232 <49.1%>	4,514 ※実際の集計値は 4,544 (100.0%)	出水	9,481 <51.0%>	9,110 <49.0%>	18,591 <100.0%>
樋脇	2,512 <50.1%>	2,500 <49.9%>	5,012 <100.0%>	長島	3,673 <51.3%>	3,486 <48.7%>	7,159 <100.0%>
永利	1,103 <50.8%>	1,070 <49.2%>	2,182 ※実際の集計値は 2,173 (100.0%)	高尾野	2,004 <50.2%>	1,989 <49.8%>	3,993 <100.0%>
平佐 ※樋脇の中 ・楠元・倉 野村が入る	2,086 <50.3%>	2,064 <49.3%>	4,150 <100.0%>	野田	1,087 <52.4%>	988 <47.6%>	2,075 <100.0%>
隈之城	3,117 <50.7%>	3,025 <49.3%>	6,142 <100.0%>	阿久根	5,534 <51.2%>	5,284 <48.8%>	10,910 ※実際の集計値は 10,818 (100.0%)
高江	1,291 <49.4%>	1,323 <50.6%>	2,614 <100.0%>	水引	4,171 <50.2%>	4,136 <49.8%>	8,307 <100.0%>
東郷	(☆3,822) <50.3%>	(☆3,773) <49.7%>	(☆7,595) <100.0%>	高城	4,434 <51.5%>	4,171 <48.5%>	8,605 <100.0%>

郷名	男子数 <比率>	女子数 <比率>	合計 <比率>
川 辺	5,698 <49.8%>	5,749 <50.2%>	11,447
勝 目 ※旧山田郷 なり	1,661 <49.9%>	1,672 <50.1%>	3,333 <100.0%>
加世田	15,887 <50.3%>	15,708 <49.7%>	31,595 <100.0%>
南 方 ※旧鹿籠・ 坊泊・久志 秋目を合す	6,183 <50.9%>	5,972 <49.1%>	12,155 <100.0%>
額 娃	7,650 <48.9%>	7,996 <51.1%>	15,646 ※実際の集計値は 15,646 (100.0%)
阿 多	2,824 <49.2%>	2,918 <50.8%>	5,742 ※実際の集計値は 5,742 (100.0%)
田布施	3,785 <50.9%>	3,647 <49.1%>	7,432 <100.0%>
伊 作	6,078 <50.5%>	5,953 <49.5%>	12,031 ※実際の集計値は 12,031 (100.0%)
喜 入	4,091 <49.4%>	4,185 <50.6%>	8,276 <100.0%>

郷名	男子数 <比率>	女子数 <比率>	合計 <比率>
知 覧	6,617 <49.8%>	6,661 <50.2%>	13,278
指 宿	5,862 <50.6%>	5,726 <49.4%>	11,588 <100.0%>
山 川	3,049 <48.5%>	3,240 <51.5%>	6,289 <100.0%>
今和泉	2,850 <50.1%>	2,835 <49.9%>	5,685 <100.0%>
谷 山	10,594 <50.2%>	10,493 <49.8%>	21,087 <100.0%>
三 島	312 <50.2%>	309 <49.8%>	621 <100.0%>
硫黄島	130	123	253
黒島	146	142	286
竹島	36	46	82
七 島	367 <47.8%>	400 <52.2%>	767 <100.0%>
口之島	51	54	105
中之島	52	53	105
臥蛇島	35	33	68
平島	34	38	72
諏訪之瀬島	0	0	0
悪石島	57	61	118
宝島	138	161	299

[出典：『薩隅日地理纂考』（明治4年正月15日、鹿児島県教育会編）]

- 注1. 本表は、近世中期以降の薩摩国所属の郷を抽出して作成してある。
 2. 太字の数値は史料原文掲載の合計数値を示し、実際の集計値とは内訳として併記されている男・女各人口の実際の合計数値である。
 3. 人口比率は各郷ごとに対比集計値で示してある。
 4. 記載が欠落している東郷の人口については、参考までに明治10年代前半（1881年頃）のデータを取める『鹿児島県地誌』の数値を掲げた。
 5. 表末参考の合計値は上記注4の東郷分の数値は含めていない。
 6. 上記『鹿児島県地誌』に掲げる東郷人口は次のとおりである。

明治10年代前半（1881年頃）の東郷総人口 7,595人
 <内訳> (100.0%)

A. 男子人口

①士族男 1,324人 ————— 計 3,822人
 ②平民男 2,498人 ————— (50.3%)

B. 女子人口

③士族女 1,299人 ————— 計 3,773人
 ④平民女 2,474人 ————— (49.7%)

7. 嘉永5年の『要用集』と明治4年の『薩隅日地理纂考』に掲げる薩摩国の人口数値に基づくと、この20年間に薩摩国ではおおよそ18%前後の人口増加があったことが推定される。その後の10年間にこれとほぼ同じ年増加率で東郷人口が増えたと仮定して明治4年段階の人口を算出すると約7,000人の数量が得られる。また当該期の東郷の男子と女子人口が明治10年代前半とほぼ同じ比率で存在していたと仮定してそれぞれの人口を算出すると、ともに3,500人前後の数量が得られる。これらの数量をベースにして藩政最末期（明治4年頃）の薩摩国の総人口及びその男女の内訳人口を推定すると、おおよそ上表最下段に示したような数値を得ることができる。

(参考) 東郷を除外した合計人口

東郷を除く薩摩国人口	男子数	女子数	合計
	231,309 (50.7%)	225,001 (49.3%)	456,425 ※実際の集計値は 456,610 (100.0%)

☆明治初期の薩摩国推計人口（含、東郷）

薩摩国総人口	46万3千～4千人位か	(100.0%)
(内訳) 男子	23万4千～5千人位か	(51%弱)
女子	22万8千～9千人位か	(49%強)

2. 大隅国

郷名	男子数 <比率>	女子数 <比率>	合計 <比率>
帖佐	2,906 <55.0%>	2,381 <45.0%>	5,487 ※実際の集計値は 5,287 (100.0%)
重富	1,975 <53.1%>	1,742 <46.9%>	3,717 <100.0%>
蒲生	3,081 <52.3%>	2,805 <47.7%>	5,886 <100.0%>
山田	1,705 <52.6%>	1,538 <47.4%>	3,243 <100.0%>
溝辺	1,710 <52.6%>	1,538 <47.4%>	3,248 <100.0%>
加治木	4,967 <52.9%>	4,419 <47.1%>	9,386 <100.0%>
襲山 ※旧日当山・曾於郡郷よりなる	3,444 <55.2%>	2,791 <44.8%>	6,195 ※実際の集計値は 6,235 (100.0%)
清水	2,234 <58.7%>	1,605 <41.8%>	3,839 <100.0%>
敷根	1,275 <54.7%>	1,058 <45.3%>	2,333 <100.0%>
福山	2,516 <51.3%>	2,387 <48.6%>	4,903 <100.0%>
財部	3,002 <51.7%>	2,803 <48.3%>	5,805 <100.0%>
恒吉	1,409 <52.5%>	1,275 <47.5%>	2,684 <100.0%>
市成	1,029 <51.3%>	978 <48.7%>	2,007 <100.0%>
岩川 ※末吉の五十町・中之内村を割く	1,996 <50.6%>	1,946 <49.4%>	3,942 <100.0%>
国分	9,470 <55.3%>	7,666 <44.7%>	17,144 ※実際の集計値は 17,136 (100.0%)

郷名	男子数 <比率>	女子数 <比率>	合計 <比率>
踊	2,012 <52.6%>	1,815 <47.4%>	3,826 ※実際の集計値は 3,827 (100.0%)
横川	1,907 <51.1%>	1,826 <48.9%>	3,793 ※実際の集計値は 3,733 (100.0%)
栗野	2,078 <51.9%>	1,929 <48.1%>	4,007 <100.0%>
吉松	1,194 <50.8%>	1,198 <49.2%>	2,352 ※実際の集計値は 2,392 (100.0%)
太良 ※本城・曾木郷を合わせなる	2,514 <51.3%>	2,386 <48.7%>	4,900 <100.0%>
菱刈 ※湯之尾・馬越郷を合わせなる	1,430 <51.3%>	1,357 <48.7%>	2,787 <100.0%>
桜島	5,808 <50.8%>	5,621 <49.2%>	11,429 <100.0%>
牛根	2,287 <53.0%>	2,028 <47.0%>	4,328 ※実際の集計値は 4,315 (100.0%)
垂水	5,946 <52.4%>	5,394 <47.6%>	11,340 <100.0%>
新城	932 <52.8%>	832 <47.2%>	1,764 <100.0%>
小根占	2,572 <50.7%>	2,497 <49.3%>	5,069 <100.0%>
大根占	1,881 <52.1%>	1,733 <47.9%>	3,612 ※実際の集計値は 3,614 (100.0%)
田代	900 <54.1%>	765 <45.9%>	1,665 <100.0%>
佐多	2,194 <49.6%>	2,229 <50.4%>	4,423 <100.0%>
内之浦	1,550 <53.3%>	1,359 <46.7%>	2,909 <100.0%>
高山	3,497 <52.2%>	3,200 <47.8%>	6,697 <100.0%>

郷名	男子数<比率>	女子数<比率>	合計<比率>
申良	4,385 <51.0%>	4,206 <49.0%>	8,591 <100.0%>
鹿屋	3,457 <52.1%>	3,175 <47.9%>	6,635 ※実際の集計値は 6,632 (100.0%)
始良	1,598 <51.6%>	1,497 <48.4%>	3,095 <100.0%>
大始良	2,268 <51.8%>	2,107 <48.2%>	4,385 ※実際の集計値は 4,375 (100.0%)
花岡	1,515 <53.4%>	1,323 <46.6%>	2,845 ※実際の集計値は 2,838 (100.0%)

郷名	男子数<比率>	女子数<比率>	合計<比率>
高隈	1,033 <50.5%>	1,014 <49.5%>	2,047 <100.0%>
百引	1,179 <50.5%>	1,155 <49.5%>	2,334 <100.0%>
種子島	<☆>	<☆>	<☆18,000余> <100.0%>
屋久島	3,318 <49.7%>	3,364 <50.3%>	6,682 <100.0%>

〔出典：『薩隅日地理纂考』（明治4年正月15日、鹿児島県教育会編）〕

1. 本表は、近世中期以降の大隅国所属の郷を抽出して作成してある。
2. 太字の数值は史料原文掲載の合計数值を示し、実際の集計値とは内訳として併記されている男・女各人口の実際の合計数值である。
3. 人口比率は各郷ごとに対比集計値で示してある。
4. 記載が欠落している種子島の項の総人口（☆）については、西村天因の『南島偉功伝』に収める慶応4年＝明治元年（1868）段階の数值を参考までに掲げた。
5. 表末の合計数值には上記注4の種子島分は含まれていない。
6. 安政元年頃改定の『要用集』及び上記『南島偉功伝』には種子島の人口について次のような数值を掲げる。

(1) 『要用集』に掲げる種子島人口

嘉永5年（1852）の種子島人口 13,932人
<内訳> (100.0%)

A. 男子人口判明分

①家来男	2,450人	計5,485人 (39.4%)
②出家男	39人	
③百姓男	1,966人	
④塩屋男	319人	
⑤浦人男	668人	
⑥野町人男	43人	

B. 女子人口

⑦家来女	2,153人	計4,179人 (30.0%)
⑧百姓女	1,395人	
⑨百姓女	212人	
⑩浦人女	482人	
⑪野町人女	26人	

C. 男女人口内訳不明分

⑫家中足軽以下 末々男女	4,113人	計4,268人 (30.6%)
⑬公義流人男女	66人	

(2) 『南島偉功伝』に掲げる幕末期以降の種子島人口

文化元年（1804）	14,209人
慶応4年＝明治元年（1868）	18,000人余
明治15年（1882）	20,117人
明治30年（1897）	24,226人

(参考) 種子島を除外した合計人口

種子島を除く大隅国人口	士卒など数	平民数	合計
	100,174 (52.4%)	90,942 (47.6%)	191,334 ※実際の集計値は 191,116 (100.0%)

☆明治初期の大隅国推計人口（含、種子島）

大隅国総人口	20万9千～21万人位か	(100.0%)
(内訳) 男子	11万人前後か	(52%弱)
女子	9万9千～10万人位か	(48%強)

7. 嘉永5年～明治30年に至る約45年間の種子島人口の増加分（10,294人）は嘉永期の約74%の増加、年率1.6%の増加率である。ほぼ同じ増加率で明治初期にも種子島人口が増えていったと仮定した場合、明治4年段階の種子島人口として18,700人前後の数量が得られる。また嘉永期の性別不明の人口約30%分（4,179人）を仮に男女均等に配分した場合、同期の種子島の男女比率として男子54.4%・女子45.6%の数值が得られる。この男女比率で明治4年段階の種子島人口が存在していたと仮定して算出した場合、当該期の男子人口として約10,200人・女子人口として約8,500人の数量が得られる。これらをベースに藩政最末期（明治4年頃）の大隅国総人口及び男女別内訳人口を推定すると、おおよそ上表最下段に示したような数值を得ることができる。

3. 日向国諸県郡

郷名	男子数<比率>	女子数<比率>	合計<比率>
綾	710 <55.6%>	566 <44.4%>	1,276 <100.0%>
小林	2,622 <51.7%>	2,453 <48.3%>	5,075 <100.0%>
高岡	3,187 <52.8%>	2,852 <47.2%>	6,039 <100.0%>
穆佐	989 <52.9%>	881 <47.1%>	1,807 ※実際の集計値は 1,870 (100.0%)
倉岡	551 <51.4%>	520 <48.6%>	1,071 <100.0%>
上三股 ※旧高城郷 なり	1,469 <52.5%>	1,331 <47.5%>	2,800 <100.0%>
山之口	989 <52.9%>	881 <47.1%>	1,870 <100.0%>
下三股 ※旧勝岡に 都城権山村 が入る	3,196 <51.4%>	3,025 <48.5%>	6,221 <100.0%>
都城	6,600 <51.1%>	6,320 <48.9%>	12,919 ※実際の集計値は 12,920 (100.0%)
荘内 ※旧都城郷 の一部を割 き設置	6,029 <51.6%>	5,645 <48.4%>	11,674 <100.0%>

[出典：『薩隅日地理纂考』（明治4年正月15日、鹿児島県教育会編）]

- 注1. 本表は、近世中期以降の日向国諸県郡所属の郷を抽出して作成してある。
2. 太字の数値は史料原文掲載の合計数値を示し、実際の集計値とは内訳として併記されている男・女各人口の実際の合計数値である。
3. 人口比率は各郷ごとに對比実際集計値で示してある。

郷名	男子数<比率>	女子数<比率>	合計<比率>
真幸 ※旧吉田・ 馬関田郷よ りなる	867 <52.6%>	780 <47.4%>	1,647 <100.0%>
加久藤	1,072 <52.2%>	983 <47.8%>	2,055 <100.0%>
飯野	1,095 <50.3%>	1,083 <49.7%>	2,078 ※実際の集計値は 2,178 (100.0%)
須木	572 <51.2%>	546 <48.8%>	1,118 <100.0%>
野尻	1,250 <55.4%>	1,006 <44.6%>	2,256 <100.0%>
高原 ※旧高崎郷 を編入せり	2,563 <53.3%>	2,248 <46.7%>	4,811 <100.0%>
志布志	3,524 <52.6%>	3,171 <47.4%>	6,695 <100.0%>
松山	997 <52.3%>	908 <47.7%>	1,905 <100.0%>
大崎	3,035 <54.1%>	2,571 <45.9%>	5,606 <100.0%>
合計	41,317 <52.2%>	37,770 <47.8%>	79,024 ※実際の集計値は 79,087 (100.0%)

☆明治初期の日向国人口（実集計値）

※但し、志布志・松山・大崎を含む

日向国総人口	79,087人	(100.0%)
(内訳) 男子	41,317人	(52%強)
平民	37,770人	(48%弱)

【第18表】鹿兒島藩の郷別・身分別人口 明治4年(1871)

1. 薩摩国

郷名	士卒数<比率>	平民数<比率>	合計<比率>
鹿兒島	士 26,992 <31.6%> 卒 2,571 ※実際の集計値は 2,567 (3.0%)	55,872 <65.4%>	85,435 ※実際の集計値は 85,431 (100.0%)
吉田	士 1,192 <31.1%> 卒 292 <7.6%>	2,353 <61.3%>	3,837 <100.0%>
郡山	士 1,600 ※実際の集計値は 1,333 (29.4%) 卒 186 <4.1%>	3,008 <66.5%>	4,535 ※実際の集計値は 4,527 (100.0%)
伊集院	士 3,159 <17.4%> 卒 1,078 <6.0%>	13,901 <76.6%>	18,138 <100.0%>
永吉	士 1,985 <47.0%> 卒 385 <9.1%>	1,857 <43.9%>	4,227 <100.0%>
吉利	士 905 <29.5%> 卒 411 <13.4%>	1,751 <57.1%>	3,067 <100.0%>
串木野	士 1,593 <10.0%> 卒 20 <0.1%>	14,293 <89.9%>	15,906
日置	士 1,291 <19.2%> 卒 446 <6.6%>	4,982 <74.2%>	6,719 <100.0%>
市来	士 3,216 <19.6%> 卒 513 <3.1%>	12,722 <77.3%>	16,421 ※実際の集計値は 16,451 (100.0%)
入来	士 2,699 <59.4%> 卒 242 <5.3%>	1,603 <35.3%>	4,514 ※実際の集計値は 4,544 (100.0%)
樋脇	士 2,033 <40.6%> 卒 36 <0.7%>	2,943 <58.7%>	5,012 <100.0%>
永利	士 1,232 <56.7%>	950 ※実際の集計値は 941 (43.3%)	2,182 ※実際の集計値は 2,173 (100.0%)
平佐 ※樋脇の中 ・楠元・倉 野村が入る	士 1,890 <45.5%> 卒 57 <1.4%>	2,203 <53.1%>	4,150 <100.0%>
隈之城	士 2,018 <32.9%> 卒 75 <1.2%>	4,049 <65.9%>	6,142 <100.0%>
高江	士 1,061 <40.6%> 卒 491 <18.8%>	1,622 ※実際の集計値は 1,062 (40.6%)	2,614 <100.0%>
東郷	(☆2,623) <34.5%>	(☆4,972) <65.5%>	(☆7,595) <100.0%>

郷名	士卒数<比率>	平民数<比率>	合計<比率>
甌島	士 4,011 ※実際の集計値は 3,966 (26.2%)	11,161 <73.8%>	15,172 ※実際の集計値は 15,127 (100.0%)
宮之城	士 2,476 <28.7%> 卒 1,082 <12.6%>	5,050 <58.7%>	8,608 <100.0%>
黒木	士 545 <59.5%> 卒 37 <4.0%>	335 <36.5%>	917 <100.0%>
山崎	士 623 <15.7%>	3,342 <84.3%>	3,965 <100.0%>
大村	士 1,118 <33.5%> 卒 91 ※実際の集計値は 95 (2.9%)	2,122 <63.6%>	3,331 ※実際の集計値は 3,335 (100.0%)
蘭牟田	士 1,096 ※実際の集計値は 1,106 (72.0%) 卒 58 <3.8%>	373 <24.2%>	1,526 ※実際の集計値は 1,537 (100.0%)
牛山 ※旧大口・ 山野・羽月 郷よりなる	士 2,922 ※実際の集計値は 2,918 (32.9%) 卒 17 <0.2%>	5,941 <66.9%>	8,880 ※実際の集計値は 8,876 (100.0%)
鶴田	士 1,167 <35.5%> 卒 9 <0.3%>	2,113 <64.2%>	3,289 <100.0%>
佐志	士 384 <32.0%> 卒 25 <2.1%>	789 <65.9%>	1,198 <100.0%>
出水	士 5,806 <31.2%> 卒 30 <0.2%>	12,755 <68.6%>	18,591 <100.0%>
長島	士 2,270 <31.7%>	4,889 <68.3%>	7,159 <100.0%>
高尾野	士 1,869 <46.8%>	2,124 <53.2%>	3,993 <100.0%>
野田	士 729 <35.1%>	1,346 <64.9%>	2,075 <100.0%>
阿久根	士 1,268 <11.6%> 卒 54 <0.5%>	9,496 <87.0%>	10,910 ※実際の集計値は 10,818 (100.0%)
水引	士 1,659 <21.0%> 卒 253 <3.0%>	6,399 ※実際の集計値は 6,395 (77.0%)	8,307 <100.0%>
高城	士 4,267 <49.6%> 卒 56 <0.6%>	4,282 <49.8%>	8,605 <100.0%>

郷名	士卒数<比率>	平民数<比率>	合計<比率>
川 辺	士 1,941 <17.0%> 卒 109 <0.9%>	9,397 <82.1%>	11,447
勝 目 ※旧山田郷 なり	士 1,234 <37.0%>	2,099 <63.0%>	3,333 <100.0%>
加世田	士 5,783 <18.3%> 卒 31 <0.1%>	25,781 <81.6%>	31,595 <100.0%>
南 方 ※旧鹿籠・ 坊泊・久志 秋目を合す	士 4,952 <40.7%>	7,203 <59.3%>	12,155 <100.0%>
穎 娃	士 2,139 ※実際の集計値は 2,109 (13.5%)	13,537 <86.5%>	15,676 ※実際の集計値は 15,646 (100.0%)
阿 多	士 1,391 <24.2%> 卒 55 <1.0%>	4,296 <74.8%>	5,747 ※実際の集計値は 5,742 (100.0%)
田布施	士 1,662 <22.3%> 卒 484 <6.6%>	5,286 <71.1%>	7,432 <100.0%>
伊 作	士 2,772 ※実際の集計値は 2,778 (23.1%) 卒 257 <2.1%>	8,996 <74.8%>	12,025 ※実際の集計値は 12,031 (100.0%)
喜 入	士 1,719 <20.8%> 卒 262 <3.2%>	6,295 <76.0%>	8,276 <100.0%>

郷名	士卒数<比率>	平民数<比率>	合計<比率>
知 覧	士 4,542 <34.2%> 卒 146 <1.1%>	8,590 <64.7%>	13,278
指 宿	士 1,074 <9.3%>	10,514 <90.7%>	11,588 <100.0%>
山 川	士 347 <5.5%>	5,942 <94.5%>	6,289 <100.0%>
今和泉	士 906 <16.0%> 卒 167 <2.9%>	4,612 <81.1%>	5,685 <100.0%>
谷 山	士 3,422 <16.2%> 卒 1,301 <6.2%>	16,364 <77.6%>	21,087 <100.0%>
三 島	士・卒 0 <0%>	621 <100.0%>	621 <100.0%>
硫黄島	0	253	253
黒島	0	286	286
竹島	0	82	82
七 島	士・卒 0 <0%>	767 <100.0%>	767 <100.0%>
口之島	0	105	105
中之島	0	105	105
臥蛇島	0	68	68
平島	0	72	72
諏訪之瀬島	0	0	0
悪石島	0	118	118
宝 島	0	299	299

[出典：『薩隅日地理纂考』（明治4年正月15日、鹿児島県教育会編）]

- 注1. 本表は、近世中期以降の薩摩国所属の郷を抽出して作成してある。
 2. 太字の数値は史料原文掲載の合計数値を示し、実際の集計値とは内訳として併記されている男・女各人口の実際の合計数値である。
 3. 人口比率は各郷ごとに對比実際集計値で示してある。
 4. 記載が欠落している東郷の人口については、参考までに明治10年代前半（1881年頃）のデータを収める『鹿児島県地誌』の数値を掲げた。
 5. 表末参考の合計値は上記注3の東郷分の数値は含めていない。
 6. 上記『鹿児島県地誌』に掲げる東郷人口は次のとおりである。

明治10年代前半（1881年頃）の東郷総人口 7,595人
 <内訳> (100.0%)

A. 士族人口

①士族男 1,324人 ———— 計2,623人
 ②士族女 1,297人 ———— (34.5%)

B. 平民人口

③平民男 2,498人 ———— 計4,972人
 ④平民女 2,474人 ———— (65.5%)

(参考) 東郷を除外した合計人口

東郷を除く 薩摩国人口	士卒数	平民数	合計
士 130,287 ※実際の集計値は 129,957 (28.5%)	326,926 ※実際の集計値は 326,353 (71.5%)	457,213 ※実際の集計値は 456,310 (100.0%)	
(内訳) 士族 118,960 ※実集計値は 118,630 (26.0%)			
卒族 11,327 (2.5%)			

☆明治初期の薩摩国推計人口（含、東郷）

薩摩国総人口	46万3千～4千人位か	(100.0%)
(内訳) 士・卒等	13万2千～3千人位か	(29%強)
平民	33万1千人前後か	(71%弱)

7. 嘉永5年の『要冊集』と明治4年の『薩隅日地理纂考』に掲げる薩摩国の人口数値に基づくと、この20年間に薩摩国ではおおよそ18%前後の人口増加があったことが推定される。その後の10年間にこれとほぼ同じ年増加率で東郷人口が増えたと仮定して明治4年段階の人口を算出すると約7,000人の数量が得られる。また当該期の東郷の士族と平民人口が明治10年代前半とほぼ同じ比率で存在していたと仮定してそれぞれの人口を算出すると、前者については2,400人余、後者については約4,600人の数量が得られる。これらの数量をベースにして藩政最末期（明治4年頃）の薩摩国の総人口及びその男女の内訳人口を推定すると、おおよそ上表最下段に示したような数値を得ることができる。

2. 大隅国

郷名	士卒数<比率>	平民数<比率>	合計<比率>
帖佐	士 1,815 <34.3%> 卒 99 <1.9%>	3,373 <63.8%>	5,487 ※実際の集計値は 5,287 (100.0%)
重富	士 1,404 <37.8%> 卒 195 <1.1%>	2,118 <57.0%>	3,717 <100.0%>
蒲生	士 3,396 <57.7%> 卒 70 <1.2%>	2,420 <41.1%>	5,886 <100.0%>
山田	士 1,231 <38.0%> 卒 79 <2.4%>	1,933 <59.6%>	3,243 <100.0%>
溝辺	士 1,126 <34.7%> 卒 138 <4.2%>	1,984 <61.1%>	3,248 <100.0%>
加治木	士 3,686 <39.3%> 卒 375 <4.0%>	5,325 <56.7%>	9,386 <100.0%>
襲山 ※旧日当・ 曾於郡郷よ りなる	士 2,843 <45.6%> 卒 39 <0.6%> 旧神官 159 <2.6%>	3,194 <51.2%>	6,195 ※実際の集計値は 6,235 (100.0%)
清水	士 2,006 <52.2%> 卒 18 <0.5%>	1,815 <47.3%>	3,839 <100.0%>
敷根	士 926 <39.7%> 卒 2 <0.1%> 旧神官 8 <0.3%>	1,397 <59.9%>	2,333 <100.0%>
福山	士 1,363 <27.8%> 卒 3 <0.1%> 旧神官 95 <1.9%>	3,442 <70.2%>	4,903 <100.0%>
財部	士 2,010 <34.6%> 旧神官 90 <1.6%>	3,705 <63.8%>	5,805 <100.0%>
恒吉	士 705 <26.3%> 旧神官 31 <1.1%>	1,948 <72.6%>	2,684 <100.0%>
市成	士 935 <46.6%> 卒 106 <5.3%>	966 <48.1%>	2,007 <100.0%>
岩川 ※末吉の五 十町・中之 内村を割く	士 1,668 <42.3%> 卒 154 <3.9%>	2,120 <53.8%>	3,942 <100.0%>
国分	士 4,538 <26.5%> 卒 129 <0.7%> 旧神官 28 <0.2%>	12,441 <72.6%>	17,144 ※実際の集計値は 17,136 (100.0%)

郷名	士卒数<比率>	平民数<比率>	合計<比率>
踊	士 1,532 <40.0%> 旧神官 53 <1.4%>	2,242 <58.6%>	3,826 ※実際の集計値は 3,827 (100.0%)
横川	士 1,354 ※実際の集計値は 1,334 <35.7%> 卒 14 <1.9%>	2,425 ※実際の集計値は 2,385 (63.9%)	3,793 ※実際の集計値は 3,733 (100.0%)
栗野	士 949 <23.7%> 卒 30 <1.9%>	3,028 <75.6%>	4,007 <100.0%>
吉松	士 962 <40.9%>	1,390 ※実際の集計値は 1,430 (59.1%)	2,352 ※実際の集計値は 2,392 (100.0%)
太良 ※本城・曾 木郷を合わ せなる	士 1,948 <39.7%> 卒 27 <0.6%>	2,925 <59.7%>	4,900 <100.0%>
菱刈 ※湯之尾・ 馬越郷を合 わせなる	士 1,150 <41.3%> 卒 120 <4.3%>	1,517 <54.4%>	2,787 <100.0%>
桜島	士 2,772 <24.2%> 卒 31 <0.3%>	8,626 <75.5%>	11,429 <100.0%>
牛根	士 828 <19.2%> 卒 5 <0.1%>	3,495 ※実際の集計値は 3,482 (80.7%)	4,328 ※実際の集計値は 4,315 (100.0%)
垂水	士 3,005 <26.5%> 卒 754 <6.6%>	7,581 <66.9%>	11,340 <100.0%>
新城	士 625 <35.5%> 卒 57 <3.2%>	1,082 <61.3%>	1,764 <100.0%>
小根占	士 839 <16.6%> 旧神官 8 <0.1%>	4,222 <83.3%>	5,069 <100.0%>
大根占	士 543 <15.0%>	3,071 <85.0%>	3,612 ※実際の集計値は 3,614 (100.0%)
田代	士 437 <26.2%>	1,228 <73.8%>	1,665 <100.0%>
佐多	士 516 <11.7%>	3,907 <88.3%>	4,423 <100.0%>
内之浦	士 586 <20.1%> 卒 1 旧神官 2 <0.1%>	2,320 <79.8%>	2,909 <100.0%>

郷名	士卒数 <比率>	平民数 <比率>	合計 <比率>
高山	士 1,409 <21.0%> 卒 43 <0.6%> 旧神官 95 <1.4%>	5,150 <76.9%>	6,697 <100.0%>
申良	士 1,406 <16.4%> 卒 37 <0.4%>	7,148 <83.2%>	8,591 <100.0%>
鹿屋	士 825 <12.4%> 卒 2 <0.3%> 旧神官 17 <0.3%>	5,788 <87.3%>	6,635 ※実際の集計値は 6,632 (100.0%)
始良	士 497 <16.1%> 卒 3 <0.1%> 旧神官 26 <0.8%>	2,569 <83.0%>	3,095 <100.0%>
大始良	士 1,001 <22.9%> 卒 8 <0.2%>	3,366 <76.9%>	4,385 ※実際の集計値は 4,375 (100.0%)

郷名	士卒数 <比率>	平民数 <比率>	合計 <比率>
花岡	士 624 <22.0%> 卒 111 <3.9%>	2,103 <74.1%>	2,845 ※実際の集計値は 2,838 (100.0%)
高隈	士 358 <17.5%> 旧神官 7 <0.3%>	1,682 <82.2%>	2,047 <100.0%>
百引	士 578 <24.8%> 卒 6 <0.2%> 旧神官 8 <0.3%>	1,742 <74.6%>	2,334 <100.0%>
種子島	士 <☆> 卒 <☆> 旧神官 <☆>	<☆>	<☆18,000余> (100.0%)
屋久島	士・卒 0 <0.0%>	6,682 <100.0%>	6,682 <100.0%>

[出典：『薩隅日地理纂考』（明治4年正月15日、鹿児島県教育会編）]

- 注1. 本表は、近世中期以降の大隅国所属の郷を抽出して作成してある。
 2. 太字の数値は史料原文掲載の合計数値を示し、実際の集計値とは内訳として併記されている男・女各人口の実際の合計数値である。
 3. 人口比率は各郷ごとに対比実際集計値で示してある。
 4. 記載が欠落している種子島の項の総人口（☆）については、西村天因の『南島偉功伝』に収める慶応4年＝明治元年（1868）段階の数値を参考までに掲げた。
 5. 表末の合計数値には上記注4の種子島分は含めていない。
 6. 安政元年頃改定の『要用集』及び上記『南島偉功伝』には種子島の人口について次のような数値を掲げる。

(1) 『要用集』に掲げる種子島人口

嘉永5年（1852）の種子島人口 13,932人
<内訳> (100.0%)

A. 士身分人口判明分

- ①家来男 2,450人
 ②家来女 2,153人
 ③出家男 39人
 計 4,642人 (33.3%)

B. 被支配の平民身分人口判明分（含む、家中足軽）

- ④百姓男 1,966人
 ⑧百姓女 1,395人
 ⑨塩屋男 319人
 ⑩塩屋女 212人
 ⑨浦人男 668人
 ⑨浦人女 482人
 ⑨野町人男 43人
 ⑨野町人女 26人
 ⑨家中足軽以下4,113人
 末々男女
 ⑨公義流人男女 66人
 計 9,290人 (66.7%)

(2) 『南島偉功伝』に掲げる幕末期以降の種子島人口

文化元年（1804） 14,209人
 慶応4年＝明治元年（1868） 18,000人余
 明治15年（1882） 20,117人
 明治30年（1897） 24,226人

(参考) 種子島を除外した合計人口

種子島を除く大隅国人口	士卒など数	平民数	合計
	57,679 ※実際の集計値は 57,659 (30.2%)	133,470 ※実際の集計値は 133,457 (69.8%)	191,334 ※実際の集計値は 191,116 (100.0%)
(内訳)			
士族	54,376 (28.5%)		
卒族	2,656 (1.4%)		
旧神官	627 (0.3%)		

☆明治初期の大隅国推計人口（含、種子島）

大隅国総人口	20万9千～21万人位か	(100.0%)
(内訳) 士・卒等	6万4千前後か	(30%強)
平民	14万6千前後か	(70%弱)

7. 嘉永5年～明治30年に至る約45年間の種子島人口の増加分（10,297人）は嘉永期の約74%の増加、年率1.6%の増加率である。ほぼ同じ増加率で明治初期にも種子島人口が増えていったと仮定した場合、明治4年段階の種子島人口として18,700人前後の数量が得られる。また当該期の種子島の士身分及び被支配庶民人口が嘉永5年段階とほぼ同じ比率でそれぞれ存在していたと仮定して算出すると、前者について約6,200人、後者について約12,500人の数量が得られる。これらをベースにして藩政最末期（明治4年頃）の大隅国層総人口及びその族籍別人口内訳を推定すると、おおよそ上表最下段に示したような数値を得ることができる。

3. 日向国諸県郡

郷名	士卒数 <比率>	平民数 <比率>	合計 <比率>
綾	士 878 <68.8%>	398 <31.2%>	1,276 <100.0%>
小林	士 2,272 <44.8%>	2,803 <55.2%>	5,075 <100.0%>
高岡	士 2,016 <33.4%>	4,023 <66.6%>	6,039 <100.0%>
穆佐	士 637 <34.1%>	1,233 <65.9%>	1,807 ※実際の集計値は 1,870 (100.0%)
倉岡	士 311 <29.0%>	760 <71.0%>	1,071 <100.0%>
上三股 ※旧高城郷 なり	士 1,093 <39.0%>	1,707 <61.0%>	2,800 <100.0%>
山之口	士 587 <31.4%>	1,283 <68.6%>	1,870 <100.0%>
下三股 ※旧勝岡に 都城梶山村 が入る	士 3,168 <50.9%>	3,053 <49.1%>	6,221 <100.0%>
都城	士 5,386 <41.7%> 卒 238 <1.8%>	7,295 ※実際の集計値は 7,296 (56.5%)	12,919 ※実際の集計値は 12,920 (100.0%)
荘内 ※旧都城郷 の一部を割 き設置	士 5,307 <45.5%>	6,367 <54.5%>	11,674 <100.0%>
真幸 ※旧吉田・ 馬関田郷よ りなる	士 979 <59.4%>	668 <40.6%>	1,647 <100.0%>

郷名	士卒数 <比率>	平民数 <比率>	合計 <比率>
加久藤	士 712 <34.6%>	1,343 <65.4%>	2,055 <100.0%>
飯野	士 1,028 ※実際の集計値は 1,128 (51.8%)	1,050 <48.2%>	2,078 ※実際の集計値は 2,178 (100.0%)
須木	士 912 <81.6%>	206 <18.4%>	1,118 <100.0%>
野尻	士 1,011 <44.8%>	1,245 <55.2%>	2,256 <100.0%>
高原 ※旧高崎郷 を編入せり	士 2,313 <48.1%>	2,498 <52.9%>	4,811 <100.0%>
志布志	士 1,643 <24.5%>	5,052 <75.5%>	6,695 <100.0%>
松山	士 578 <30.3%>	1,327 <69.7%>	1,905 <100.0%>
大崎	士 1,775 <31.7%>	3,831 <68.3%>	5,606 <100.0%>
合計	32,844 ※実際の集計値は 32,944 (41.7%) (内訳) 士族 32,606 ※実際の集計値は 32,706 (41.4%) 卒族 238 (0.3%)	46,142 ※実際の集計値は 46,143 (58.3%)	78,986 ※実際の集計値は 79,087 (100.0%)

[出典：『薩隅日地理纂考』（明治4年正月15日、鹿児島県教育会編）]

- 注1. 本表は、近世中期以降の日向国諸県郡所属の郷を抽出して作成してある。
 2. 太字の数値は史料原文掲載の合計数値を示し、実際の集計値とは内訳として併記されている男・女各人口の実際の合計数値である。
 3. 人口比率は各郷ごとに対比実際集計値で示してある。

☆明治初期の日向国人口（実集計値）
 ※但し、志布志・松山・大崎を含む

日向国総人口	79,087人	(100.0%)
(内訳) 士・卒	32,944人	(42%弱)
平民	46,143人	(58%強)